

1 暮らしや社会における私たちの人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

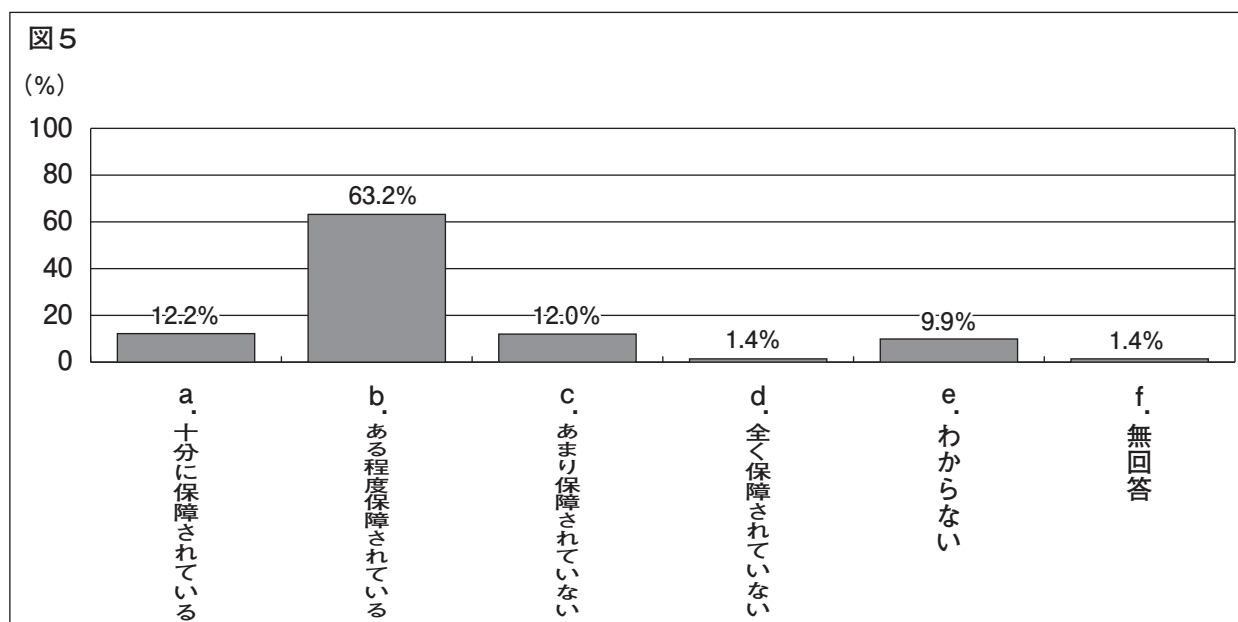
自分の人権について

質問1 現在の日本では、あなたの人権は十分に保障されていると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- 1 十分に保障されている
- 2 ある程度保障されている
- 3 あまり保障されていない
- 4 全く保障されていない
- 5 わからない

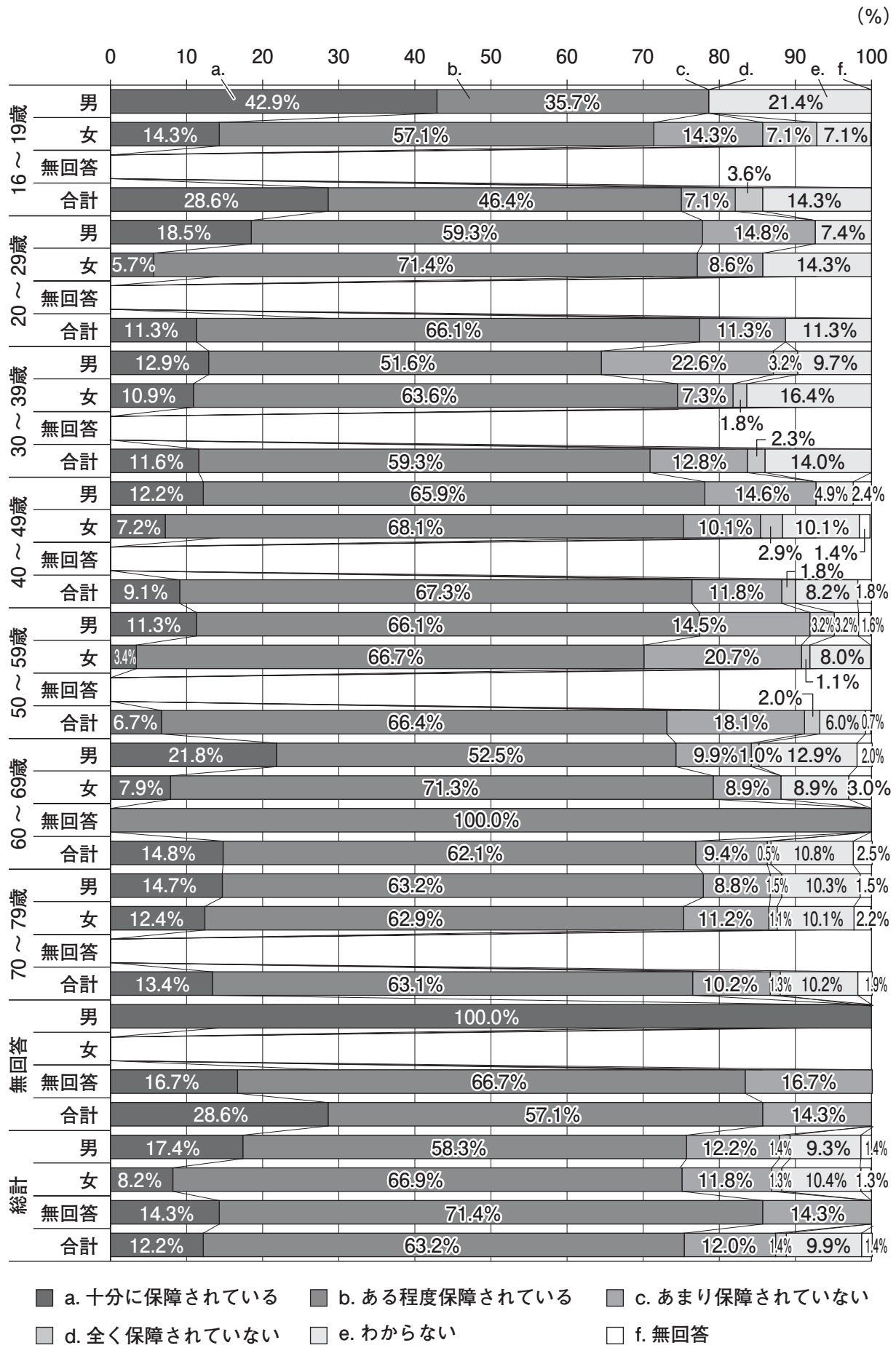
〈分析〉

- **人権**は保障されていると思うかどうかについて、「a.十分に保障されている」、「b.ある程度保障されている」は合わせて75.4%と7割を超える人が人権は保障されていると考えている。また、「c.あまり保障されていない」、「d.全く保障されていない」は合わせて13.4%であった。〔図5〕



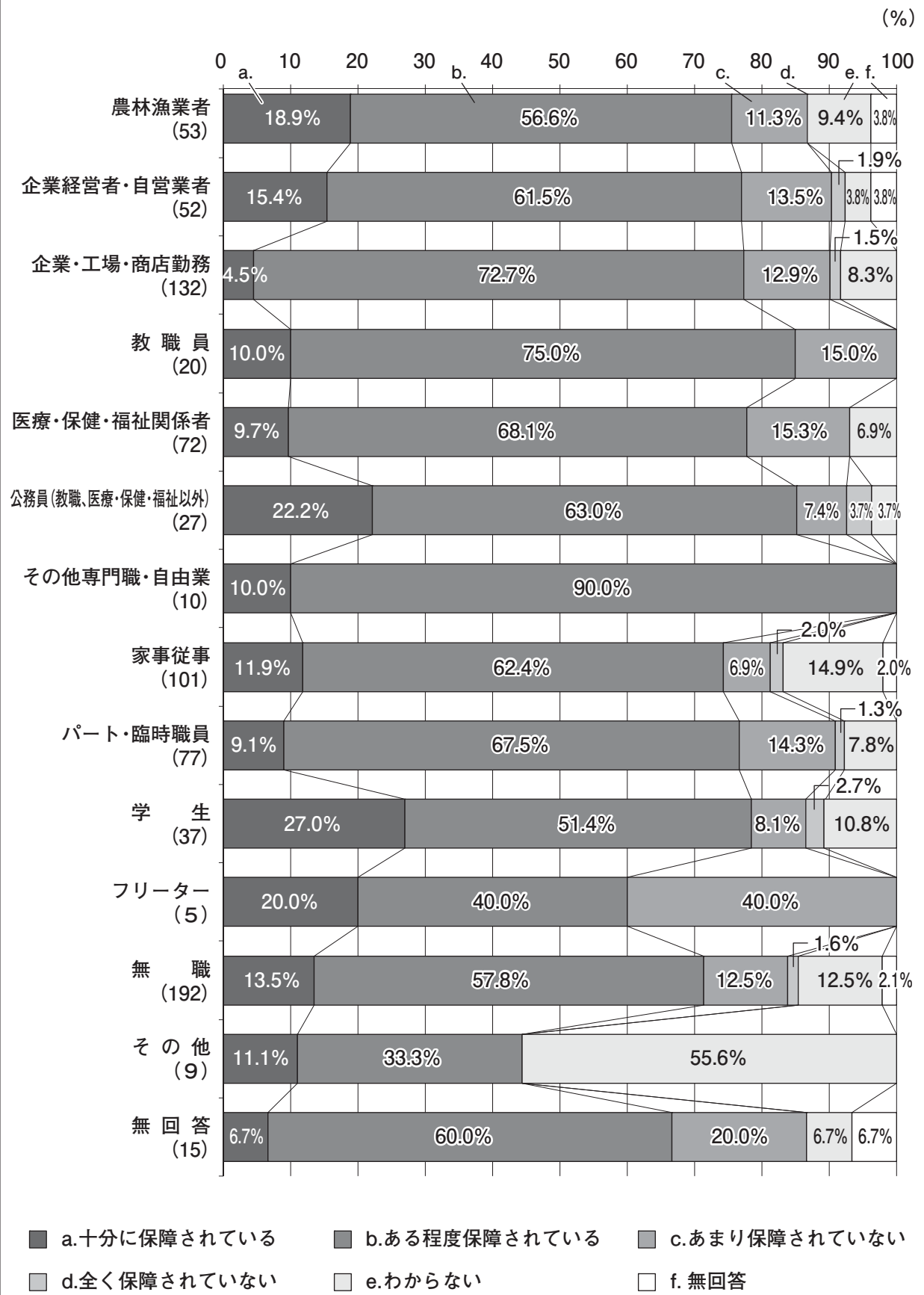
- **性別**〔図6〕では、「a.十分に保障されている」、「b.ある程度保障されている」を合わせると男女ともに7割以上となっている。選択肢の「a.十分に保障されている」は男性の17.4%に比べて、女性は8.2%と半分以下である。
- **年齢階層別**〔図6〕では、「a.十分に保障されている」、「b.ある程度保障されている」を合わせると、どの年齢層も7割以上で大差はない。16～19歳は「a.十分に保障されている」が約3割と高くなっている。

図6



○ 職業別 [図7] では、「a.十分に保障されている」、「b.ある程度保障されている」を合わせると、フリーター(60.0%)、その他(44.4%)以外の職種は7割以上と高い。なかでも学校の教職員及び学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員はともに約85%、その他専門職・自由業は100%と極めて高くなっている。

図7



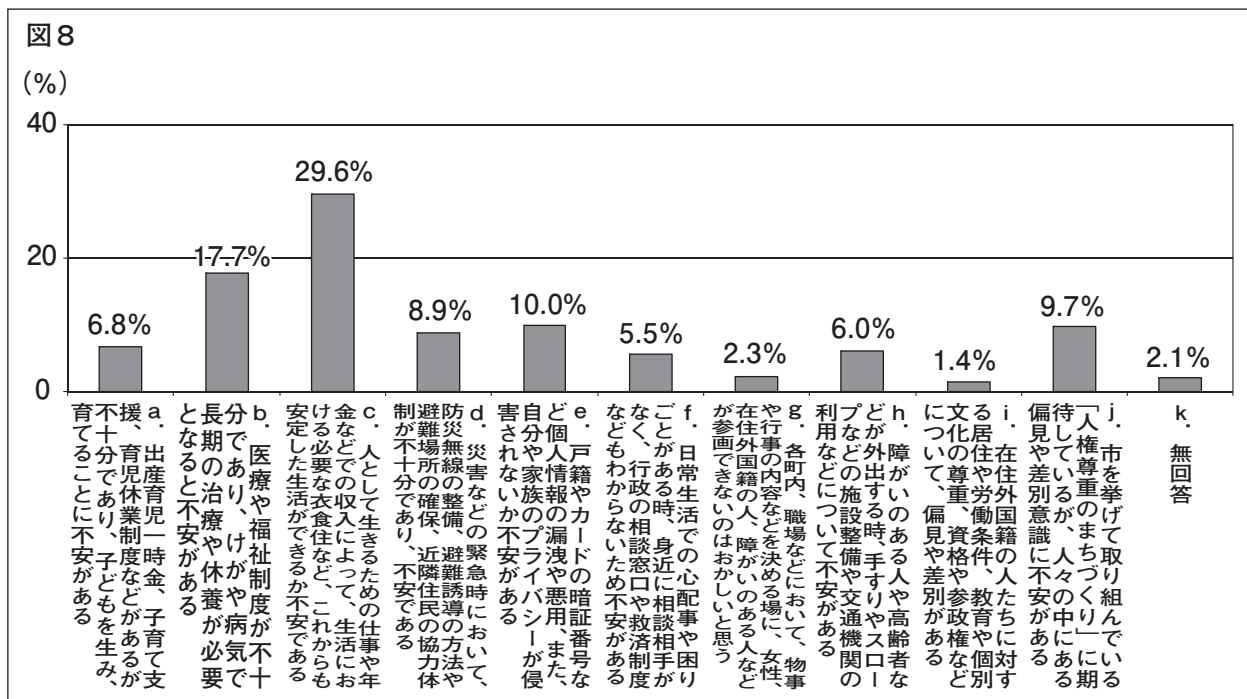
基本的人権について

質問2 人権は、すべての人が尊重され幸せに生きるために保障されている権利です。あなたの暮らしの中で、身近に感じている人権課題はどれですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。
(○は3つ以内)

- 1 出産育児一時金、子育て支援、育児休業制度などがあるが不十分であり、子どもを生み、育てることに不安がある
- 2 医療や福祉制度が不十分であり、けがや病気で長期の治療や休養が必要になると不安がある
- 3 人として生きるための仕事や年金などでの収入によって、生活における必要な衣食住など、これからも安定した生活ができるか不安である
- 4 災害などの緊急時において、防災無線の整備、避難誘導の方法や避難場所の確保、近隣住民の協力体制が不十分であり、不安である
- 5 戸籍やカードの暗証番号など個人情報の漏洩（ろうえい）や悪用、また、自分や家族のプライバシーが侵害されないか不安がある
- 6 日常生活での心配事や困りごとがある時、身近に相談相手がなく、行政の相談窓口や救済制度などもわからないため不安がある
- 7 各町内、職場などにおいて、物事や行事の内容などを決める場に、女性、在住外国籍の人、障がいのある人などが参画できないのはおかしいと思う
- 8 障がいのある人や高齢者などが外出する時、手すりやスロープなどの施設整備や交通機関の利用などについて不安がある
- 9 在住外国籍の人たちに対する居住や労働条件、教育や個別文化の尊重、資格や参政権などについて、偏見や差別がある
- 10 市を挙げて取り組んでいる「人権尊重のまちづくり」に期待しているが、人々の中にある偏見や差別意識に不安がある

〈分析〉

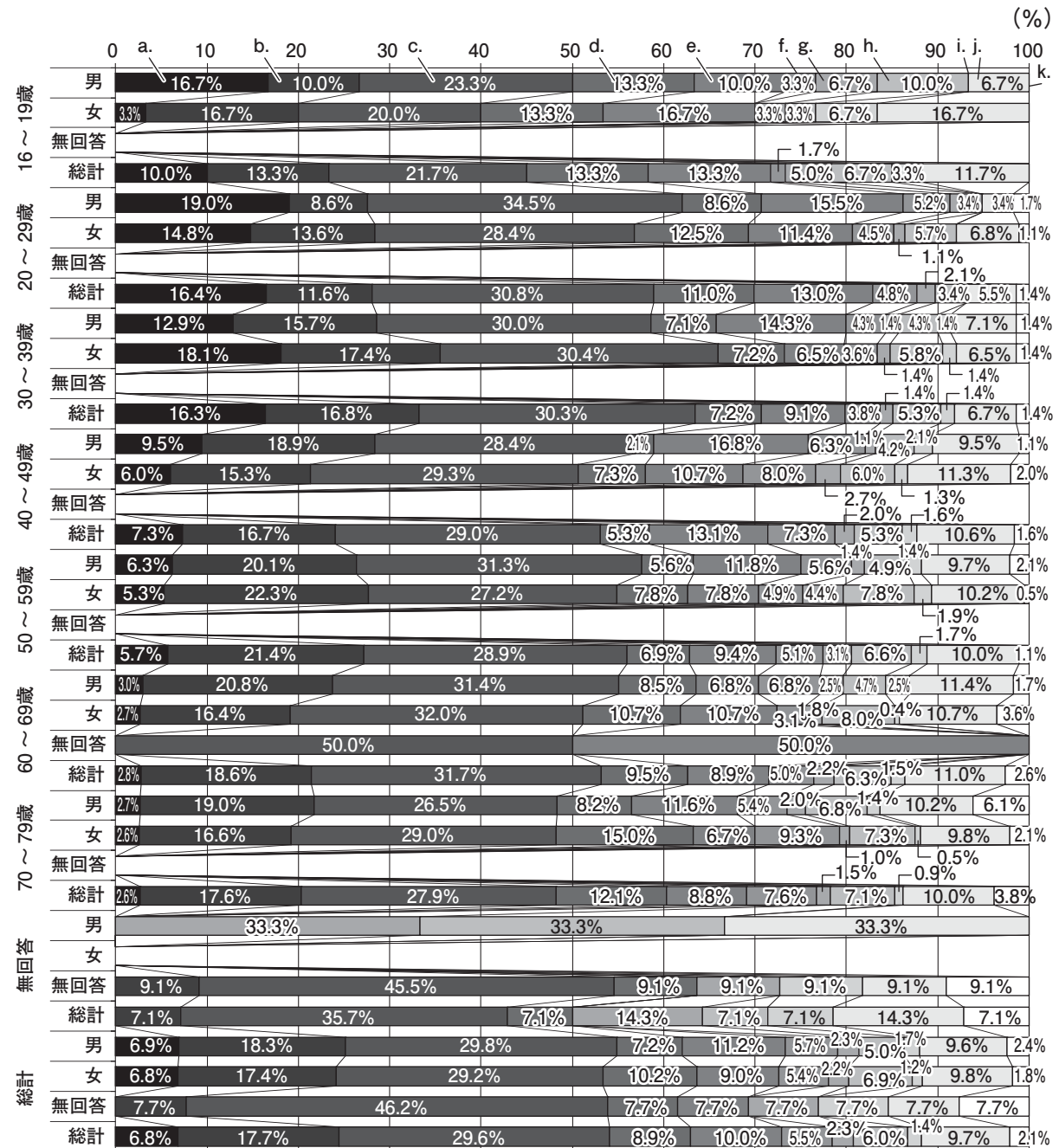
○ 暮らしの中で、身近に感じている人権課題については、「c. 安定した生活ができる」(29.6%)が突出して高く、次いで「b. 医療や福祉制度が不十分」(17.7%)、「e. 個人情報の漏洩や悪用」(10.0%)、「j. 偏見や差別意識の存在」(9.7%)、「d. 災害などの緊急時」(8.9%)の順になっている。一方、「g. 女性や障がい者などの社会参画」(2.3%)、「i. 在住外国籍の人の人権」(1.4%)は極めて低い。〔図8〕



○ 性別〔図9〕では、大差はない。

○ 年齢階層別 [図9] では、すべての年代で「c. 安定した生活ができる」が約3割と最も高い。20～29歳以外の年代は「b. 医療や福祉制度が不十分」が2番目に高い。20～29歳は「a. 出産や子育て」(16.4%)が2番目に高く、30～39歳も「a. 出産や子育て」(16.3%)は3番目に高くなっている。40～49歳は「b. 医療や福祉制度が不十分」に次いで「e. 個人情報の漏洩や悪用」「j. 偏見や差別意識の存在」の順に高くなっている。「d. 災害などの緊急時」は16～19歳(13.3%)、20～29歳(11.0%)の若年層と70～79歳(12.1%)の高齢者層が高い。「j. 偏見や差別意識の存在」は16～19歳(11.7%)が最も高い。

図9



- a. 出産育児一時金、子育て支援、育児休業制度などがあるが不十分であり、子どもを生み、育てることに不安がある
- b. 医療や福祉制度が不十分であり、けがや病気で長期の治療や休養が必要となると不安がある
- c. 人として生きるための仕事や年金などでの収入によって、生活における必要な衣食住など、これからも安定した生活ができるか不安である
- d. 災害などの緊急時において、防災無線の整備、避難誘導の方法や避難場所の確保、近隣住民の協力体制が不十分であり、不安である
- e. 戸籍やカードの暗証番号など個人情報の漏洩や悪用、また、自分や家族のプライバシーが侵害されないか不安がある
- f. 日常生活での心配事や困りごとがある時、身近に相談相手がなく、行政の相談窓口や救済制度などもわからないため不安がある
- g. 各町内、職場などにおいて、物事や行事の内容などを決める場に、女性、在住外国籍の人、障がいのある人などが参画できないのはおかしいと思う
- h. 障がいのある人や高齢者などが外出する時、手すりやスロープなどの施設整備や交通機関の利用などについて不安がある
- i. 在住外国籍の人たちに対する居住や労働条件、教育や個別文化の尊重、資格や参政権などについて、偏見や差別がある
- j. 市を挙げて取り組んでいる「人権尊重のまちづくり」に期待しているが、人々の中にある偏見や差別意識に不安がある
- k. 無回答

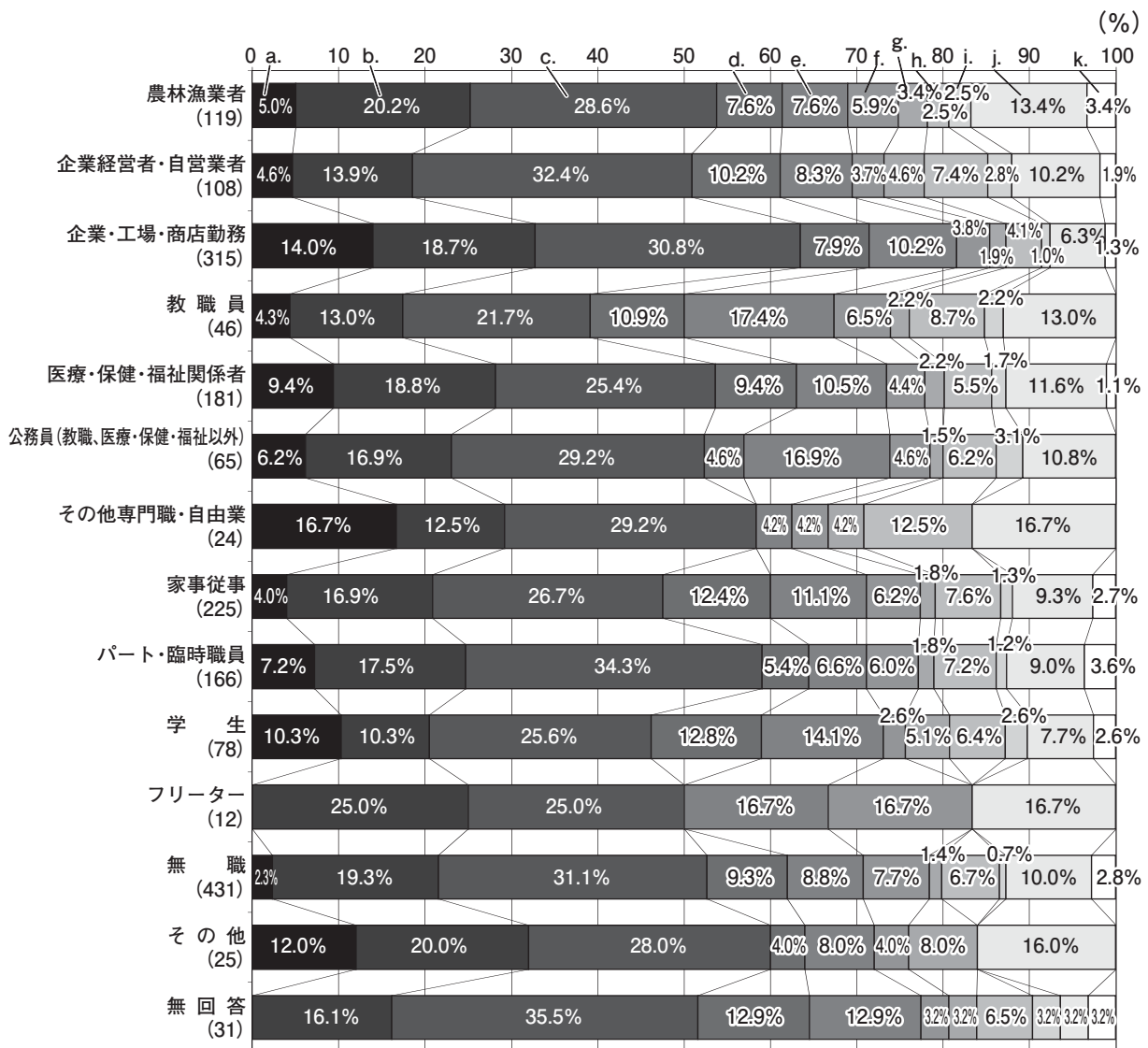
○ **職業別** [図10] では、どの職種とも「c. 安定した生活ができるか不安である」が最も高く、ことにパート・臨時職員(34.3%)、企業経営者・自営業者(32.4%)、無職(31.1%)、民間企業や工場、商店に勤める人(30.8%)はいずれも30%以上と高い。

「b. 医療や福祉制度」はフリーター(25.0%)、農林漁業者(20.2%)、その他(20.0%)の順に高くなっている。

「e. 個人情報の漏洩や悪用」は学校の教職員(17.4%)、学校・医療・保健・福祉関係者以外の公務員(16.9%)、フリーター(16.7%)の順に高い。「j. 偏見や差別意識の存在」は、その他専門職・自由業、フリーター、その他がいずれも16%以上である。「d. 災害などの緊急時」は、学生(12.8%)、主として家事に従事(12.4%)、学校の教職員(10.9%)、企業経営者・自営業者(10.2%)が高くなっている。

「a. 出産や子育て」は、その他専門職・自由業(16.7%)、民間企業や工場、商店に勤める人(14.0%)、その他(12.0%)が高い。その他専門職・自由業は「h. 障がいのある人や高齢者の人権」(12.5%)が他の職種に比べて最も高くなっている。

図10



- a. 出産育児一時金、子育て支援、育児休業制度などがあるが不十分であり、子どもを生み、育てることに不安がある
- b. 医療や福祉制度が不十分であり、けがや病気で長期の治療や休養が必要となると不安がある
- c. 人として生きるための仕事や年金などの収入によって、生活における必要な衣食住など、これからも安定した生活ができるか不安である
- d. 災害などの緊急時において、防災無線の整備、避難誘導の方法や避難場所の確保、近隣住民の協力体制が不十分であり、不安である
- e. 戸籍やカードの暗証番号など個人情報の漏洩や悪用、また、自分や家族のプライバシーが侵害されないか不安がある
- f. 日常生活での心配事や困りごとがある時、身近に相談相手がなく、行政の相談窓口や救済制度などもわからないため不安がある
- g. 各町内、職場などにおいて、物事や行事の内容などを決める場に、女性、在住外国籍の人、障がいのある人などが参画できないのはおかしいと思う
- h. 障がいのある人や高齢者などが外出する時、手すりやスロープなどの施設整備や交通機関の利用などについて不安がある
- i. 在住外国籍の人たちに対する居住や労働条件、教育や個別文化の尊重、資格や参政権などについて、偏見や差別がある
- j. 市を挙げて取り組んでいる「人権尊重のまちづくり」に期待しているが、人々の中にある偏見や差別意識に不安がある
- k. 無回答

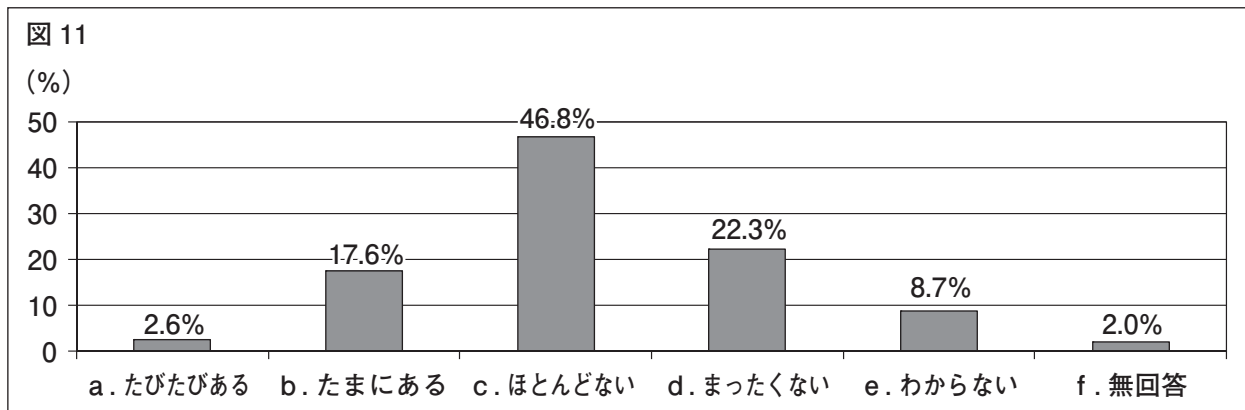
差別と人権侵害について

質問3-① 日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたことがありますか。あてはまるもの二つに○をつけてください。

1	たびたびある	} →	質問3-②、質問3-③へ
2	たまにある		
3	ほとんどない	} →	質問4へ
4	まったくない		
5	わからない		

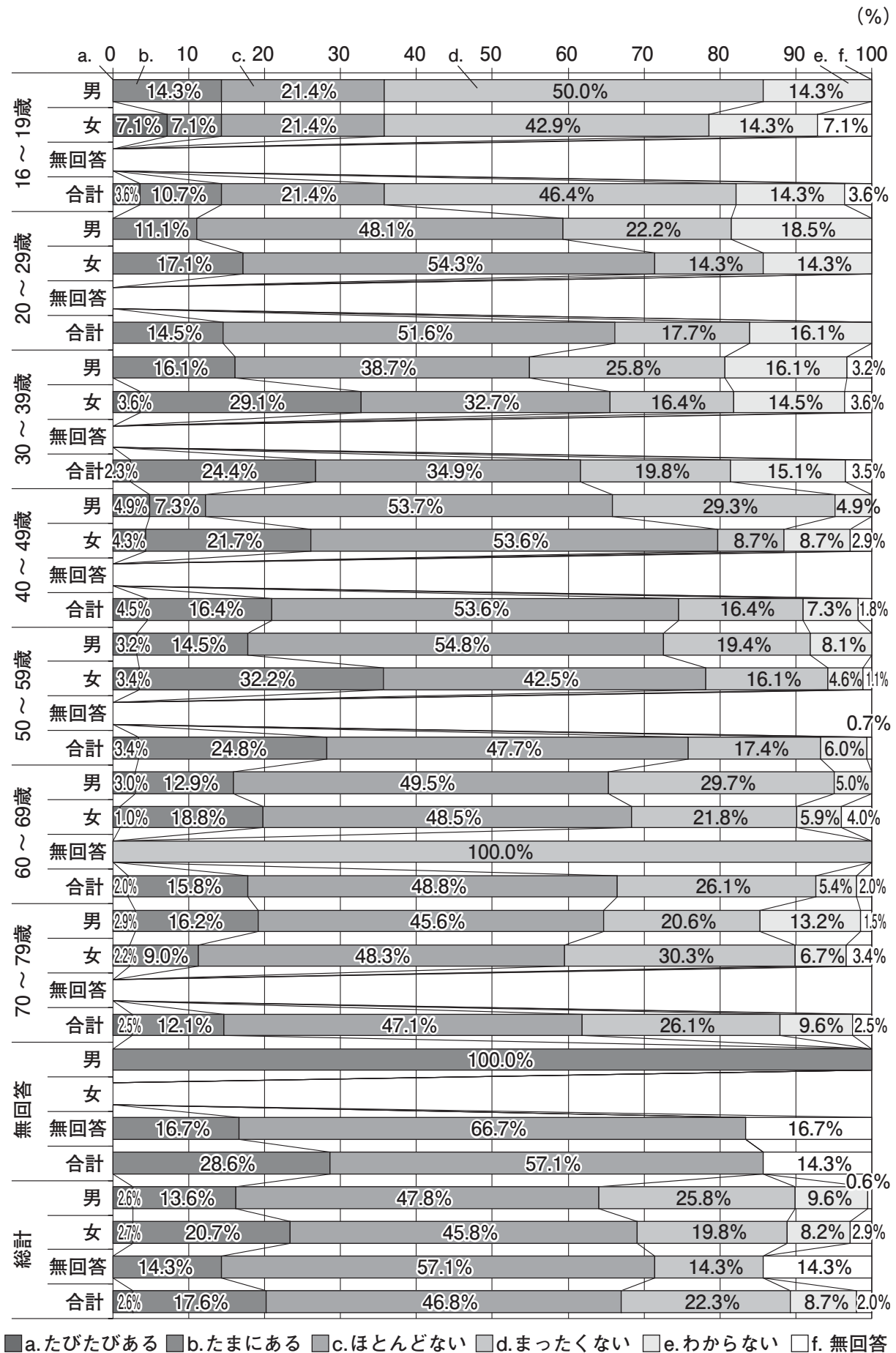
〈分析〉

- 日常生活の中で差別や人権侵害を受けたことがあるかどうかについて、「a. たびたびある」、「b. たまにある」を合わせて20.2%、「c. ほとんどない」、「d. まったくない」を合わせて69.1%と人権侵害を受けたことがない人が約7割となっている。〔図11〕



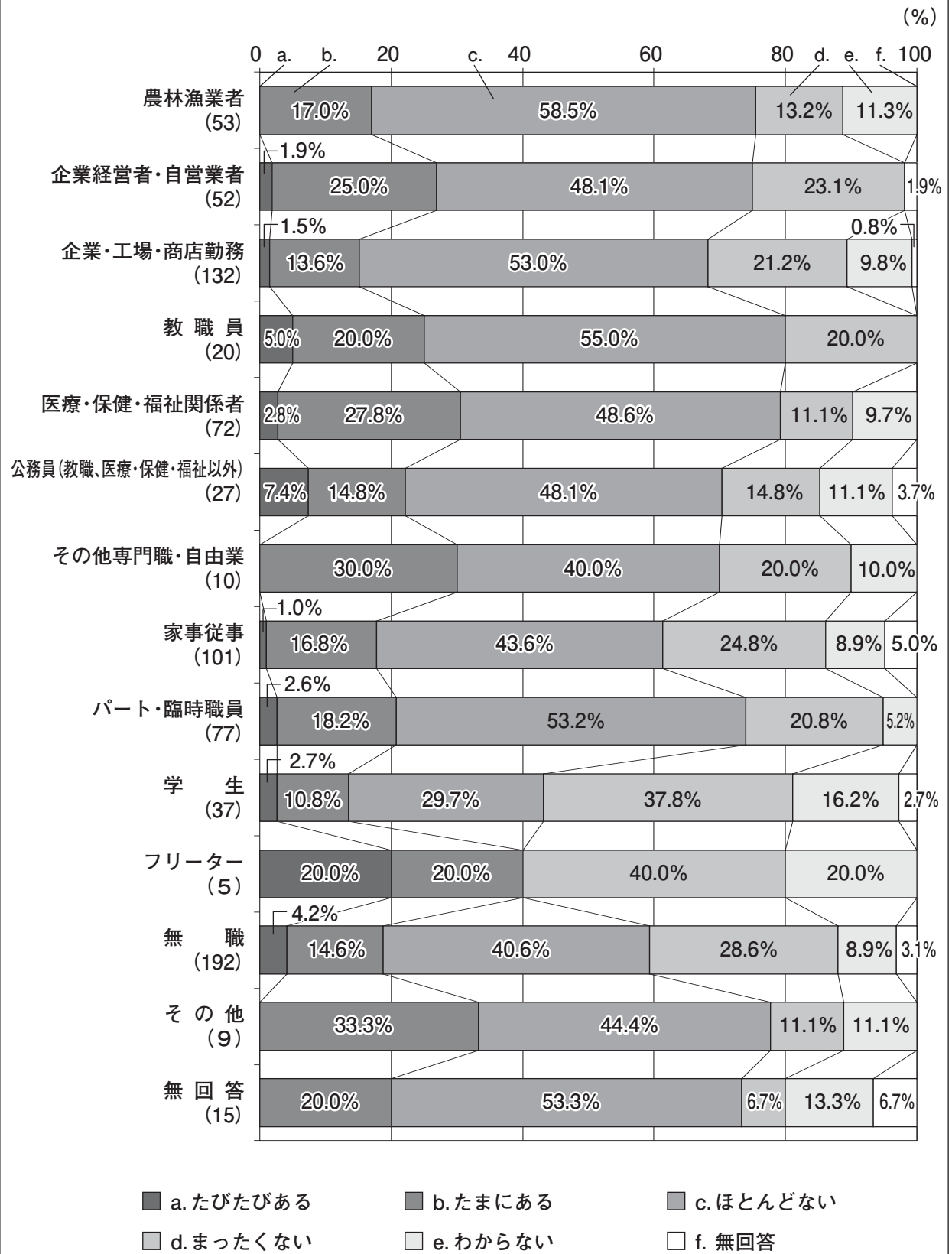
- **性別**〔図12〕では、「a. たびたびある」、「b. たまにある」を合わせて、女性(23.4%)は男性(16.2%)より7.2ポイント高い。
- **年齢階層別**〔図12〕では、「a. たびたびある」、「b. たまにある」を合わせると、50～59歳(28.2%)が最も高く、次いで30～39歳(26.7%)、40～49歳(20.9%)が高くなっている。他の年齢層では60～69歳は17.8%、16～19歳、20～29歳の若年層と70～79歳の高齢者層は15%以下である。16～19歳は「d. まったくない」が46.4%と高い割合になっている。また、「e. わからない」は30～39歳以下の若年層が15%前後と高い。

図12



○ **職業別** [図 13] では、「a. たびたびある」、「b. たまにある」を合わせると、フリーター(40.0%)が最も高く、次いで医療・保健・福祉関係者(30.6%)、その他専門職・自由業(30.0%)、企業経営者・自営業者(26.9%)、学校の教職員(25.0%)の順に高い。反対に最も低いのは学生(13.5%)で、次いで民間企業や工場、商店に勤める人(15.1%)、農林漁業者(17.0%)、主として家事に従事(17.8%)の順に低くなっている。「d. まったくない」、「e. わからない」は、フリーター、学生の高い割合である。

図13

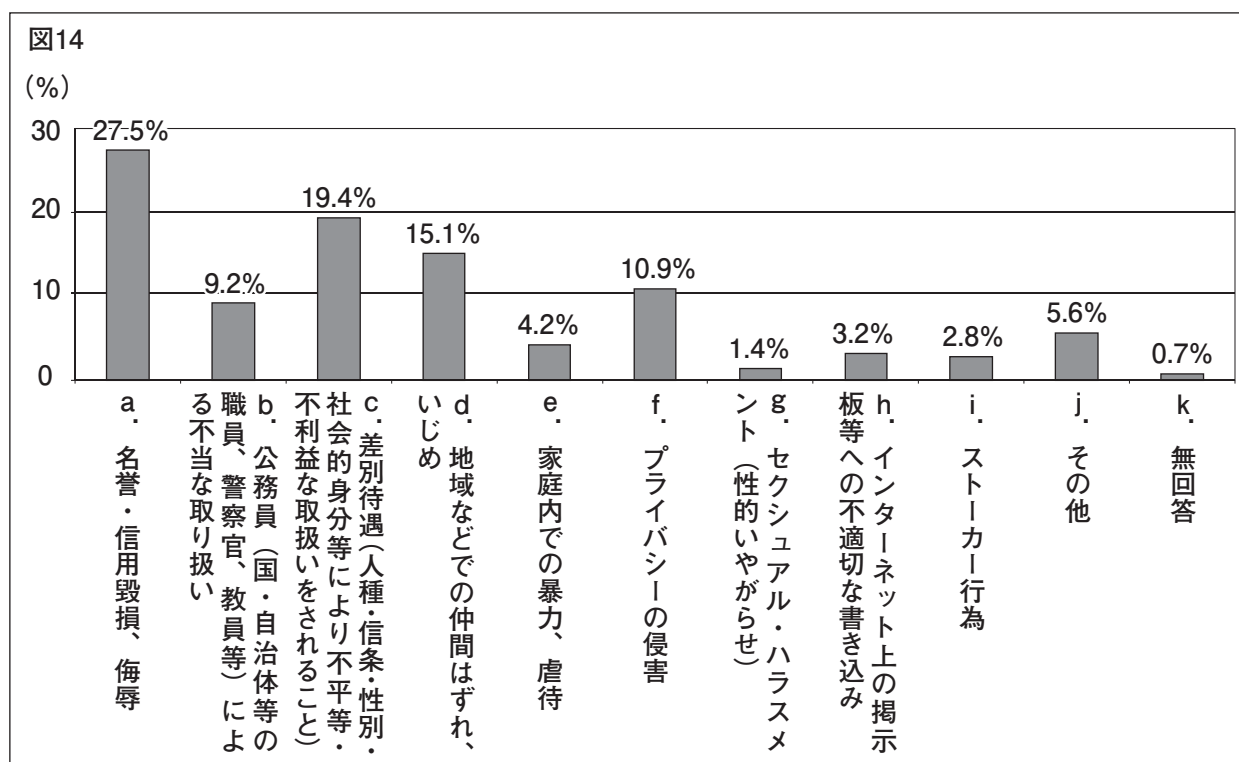


質問3-② 問3-①で1又は2と回答された方にお聞きします。特に、差別や人権侵害を受けたのはどのようなことですか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----|---|
| 1 | 名誉・信用毀損(きそん)、侮辱(ぶじょく) |
| 2 | 公務員(国・自治体等の職員、警察官、教員等)による不当な取扱い |
| 3 | 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等により不平等・不利益な取扱いをされること) |
| 4 | 地域などでの仲間はずれ、いじめ |
| 5 | 家庭内での暴力、虐待 |
| 6 | プライバシーの侵害 |
| 7 | セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ) |
| 8 | インターネット上の掲示板等への不適切な書き込み |
| 9 | ストーカー行為 |
| 10 | その他() |

〈分析〉

○ 質問3-①で「たびたびある」、「たまにある」と回答した人の差別や人権侵害の種類について、「a. 名誉・信用毀損、侮辱」(27.5%)が最も高く、次いで「c. 差別待遇」(19.4%)となっている。〔図14〕



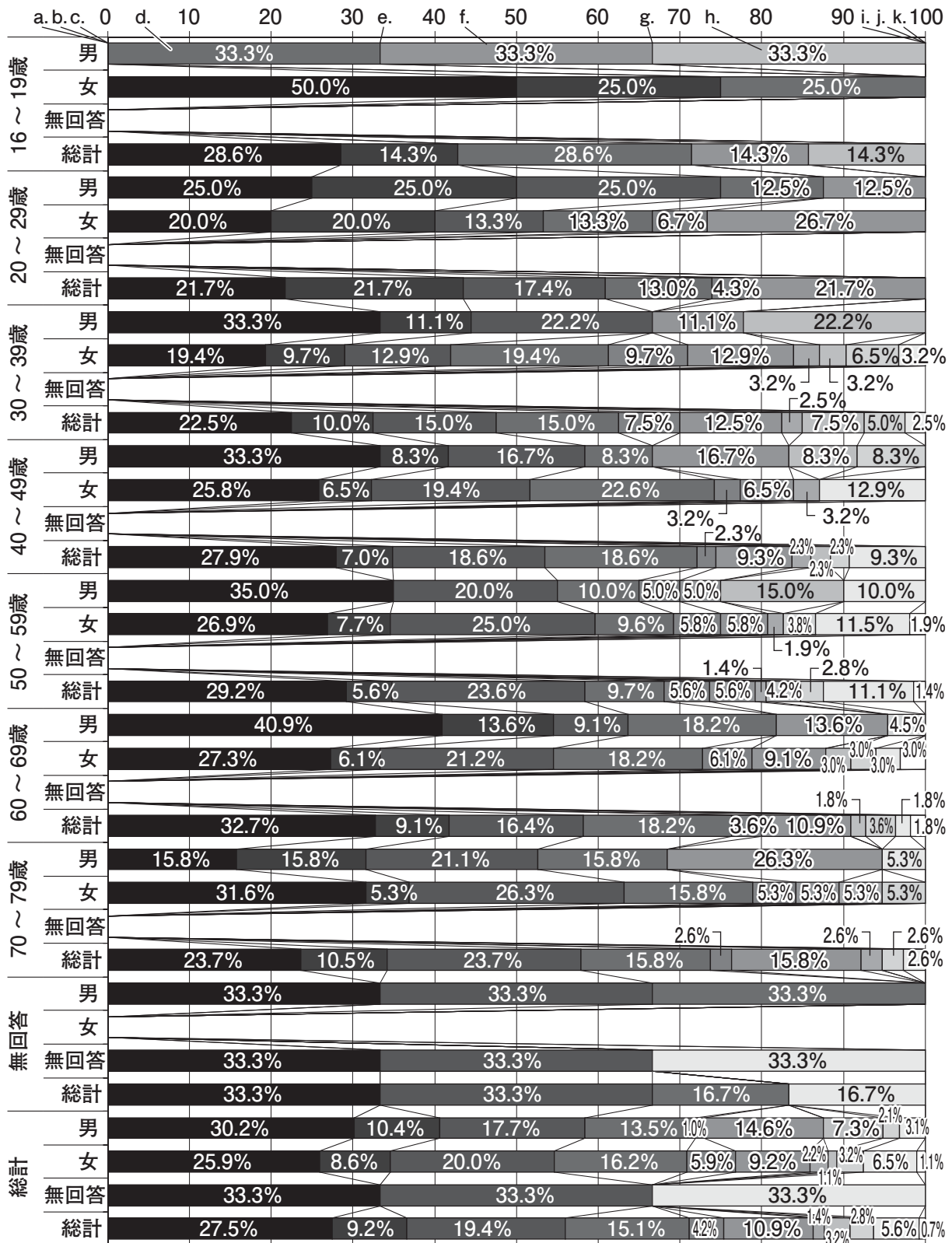
○ 性別 [図15] でみると、男女とも「a. 名誉・信用毀損、侮辱」が最も高い。男性では「h. インターネット上の掲示板等への不適切な書き込み」が6.2ポイント、「f. プライバシーの侵害」が5.4ポイントそれぞれ女性より高く、「e. 家庭内での暴力、虐待」は女性が男性より4.9ポイント高くなっている。

○ 年齢階層別 [図15] でみると、「a. 名誉・信用毀損、侮辱」は60～69歳(32.7%)、50～59歳(29.2%)、16～19歳(28.6%)、40～49歳(27.9%)の順に高く、20～29歳(21.7%)が最も低くなっている。

20～29歳は「f. プライバシーの侵害」及び「b. 公務員による不当な取扱い」がいずれも21.7%と他の年代に比べて極めて高くなっている。16～19歳は「d. 地域などでの仲間はずれ、いじめ」が「a. 名誉・信用毀損、侮辱」と同じ28.6%である。また、「h. インターネット上の掲示板等への不適切な書き込み」(14.3%)は他の年代に比べて顕著に高くなっている。

図15

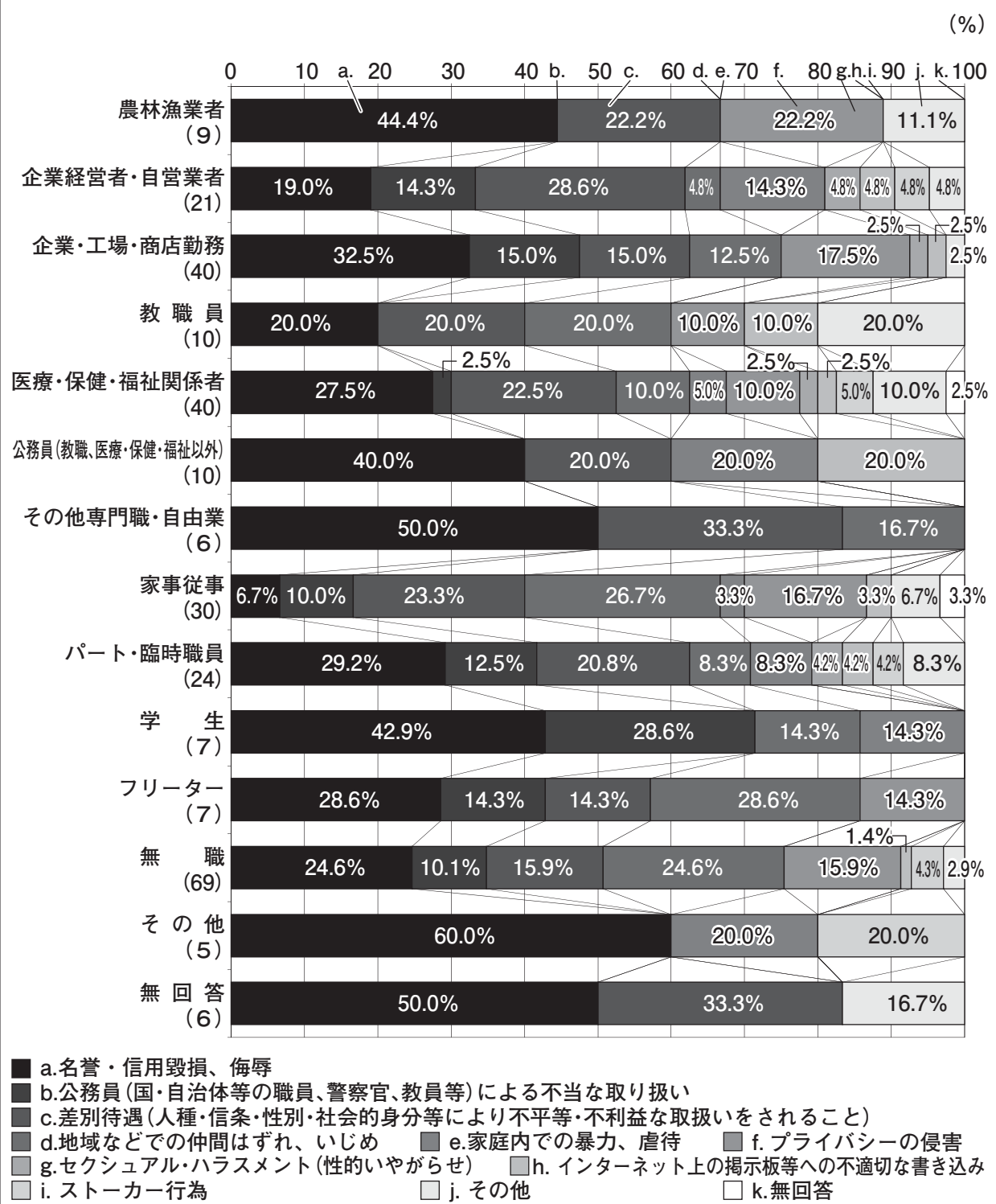
(%)



- a. 名誉・信用毀損、侮辱
- b. 公務員(国・自治体等の職員、警察官、教員等)による不当な取り扱い
- c. 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等により不平等・不利益な取扱いをされること)
- d. 地域などでの仲間はずれ、いじめ
- e. 家庭内での暴力、虐待
- f. プライバシーの侵害
- g. セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
- h. インターネット上の掲示板等への不適切な書き込み
- i. ストーカー行為
- j. その他
- k. 無回答

○ **職業別** [図16] にみると、主として家事に従事する者(6.7%)は極めて低いが、他のほとんどの職種で「a. 名誉・信用毀損、侮辱」が最も高く、なかでもその他(60.0%)、その他の専門職・自由業(50.0%)、農林漁業者(44.4%)、学生(42.9%)、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(40.0%)が高い。「c. 差別待遇」はその他の専門職・自由業(33.3%)、企業経営者・自営業者(28.6%)が高く、「b. 公務員による不当な取り扱い」では学生(28.6%)が突出して高い。「d. 地域などでの仲間はずれ、いじめ」はフリーター(28.6%)、主として家事に従事(26.7%)、無職(24.6%)が高い。「e. 家庭内での暴力、虐待」は学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(20.0%)、その他(20.0%)が高く、次いで企業経営者・自営業者及び学生が14.3%である。「f. プライバシーの侵害」は農林漁業者(22.2%)が最も高く、次いで民間企業や工場、商店に勤める人(17.5%)、主として家事に従事(16.7%)が高くなっている。

図16

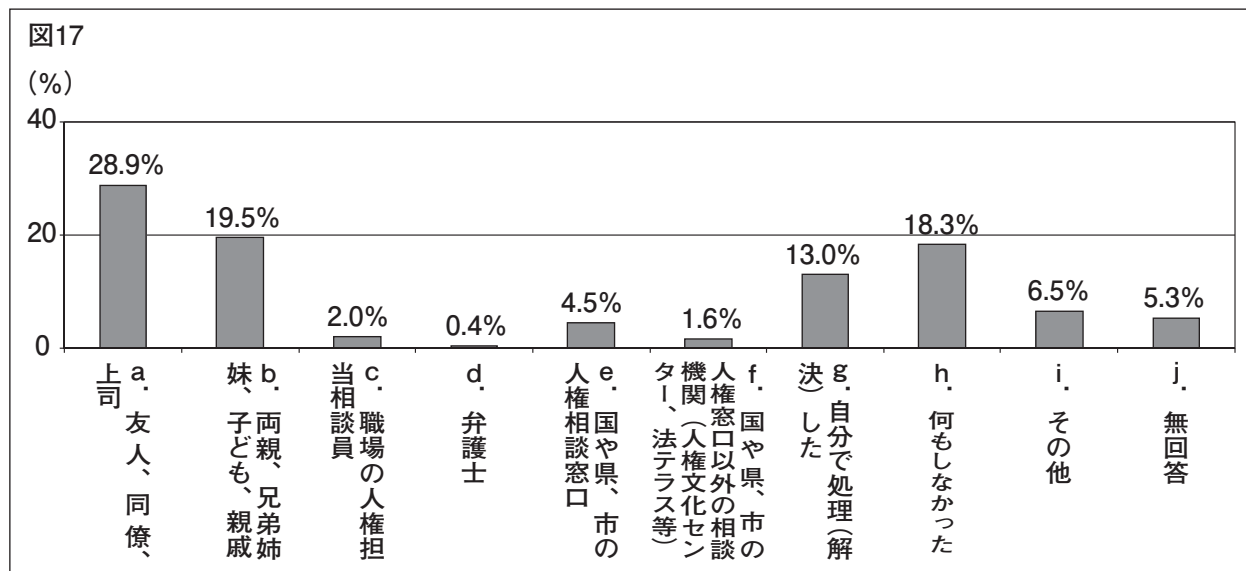


質問3-③ 同じく問3-①で1又は2と回答された方にお聞きします。差別や人権侵害を受けたとき、どなたかへ相談されましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 友人、同僚、上司 |
| 2 | 両親、兄弟姉妹、子ども、親戚 |
| 3 | 職場の人権担当相談員 |
| 4 | 弁護士 |
| 5 | 国や県、市の人権相談窓口 |
| 6 | 5以外の相談機関(人権文化センター、法テラス等) |
| 7 | 自分で処理(解決)した |
| 8 | 何もしなかった |
| 9 | その他() |

〈分析〉

○ 質問3-①で「たびたびある」「たまにある」と回答した人の相談相手について、「a.友人、同僚、上司」(28.9%)が最も高く、次いで「b.両親、兄弟姉妹、子ども、親戚」(19.5%)、「h.何もしなかった」(18.3%)が高くなっている。「c.職場の人権担当相談員」、「d.弁護士」、「e.国や県、市の人権相談窓口」、「f.国や県、市の人権相談窓口以外の相談機関」は合わせても8.5%と極めて低い。〔図17〕

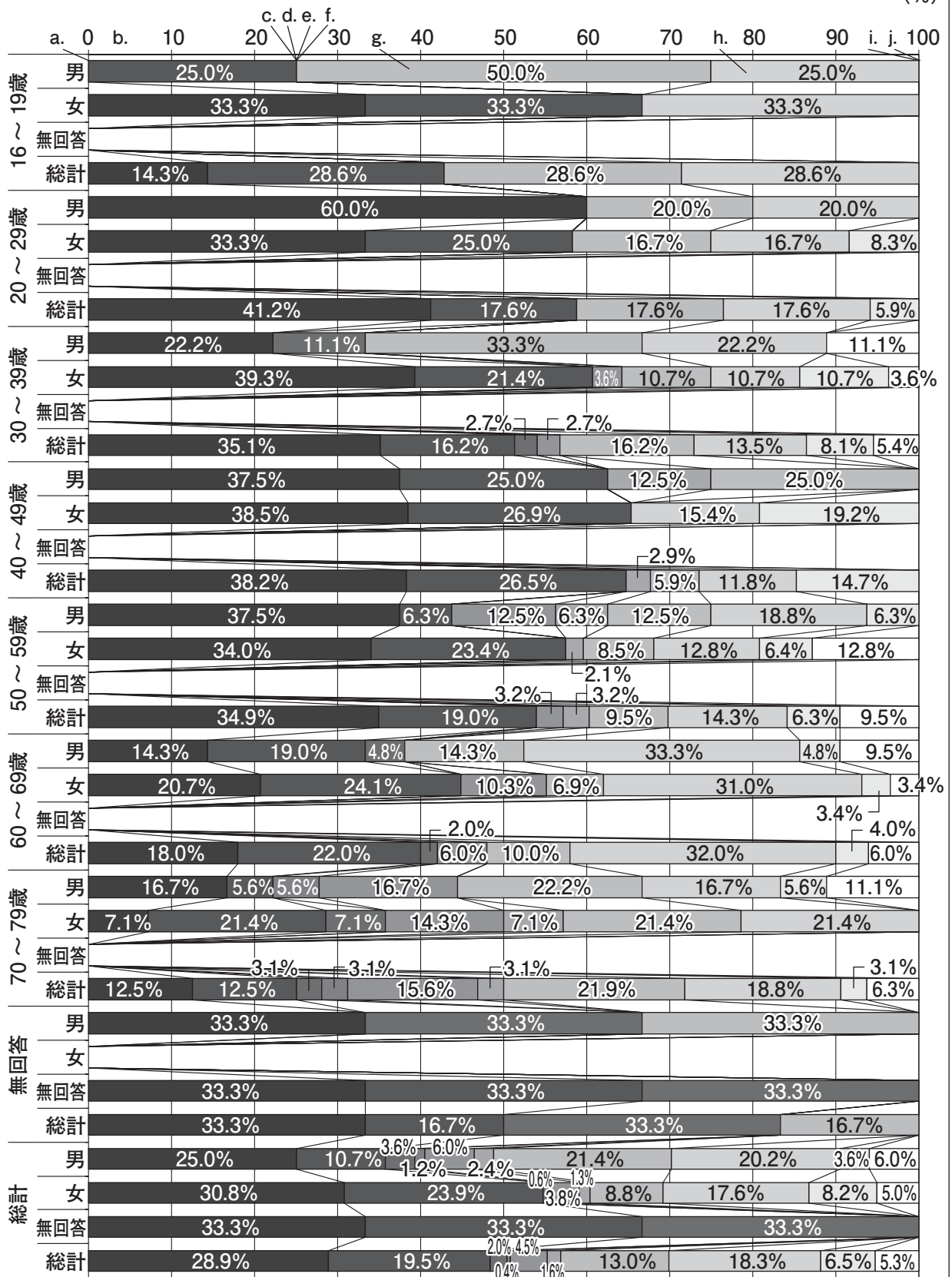


○ 性別 [図18] でみると、男女ともに「a.友人、同僚、上司」(男性25.0%、女性30.8%)が最も高い。「b.両親、兄弟、子ども、親戚」については女性が男性を大幅に上回っている。一方、「g.自分で処理した」は男性が女性を大幅に上回っている。

○ 年齢階層別 [図18] でみると、16～19歳は「b.両親、兄弟姉妹、子ども、親戚」(28.6%)、「g.自分で処理(解決)した」(28.6%)、「h.何もしなかった」(28.6%)とする回答である。20～29歳から50～59歳ではいずれも「a.友人、同僚、上司」が最も高い。60～69歳は「h.何もしなかった」(32.0%)、70～79歳は「h.自分で処理した」(21.9%)が最も高くなっている。

図18

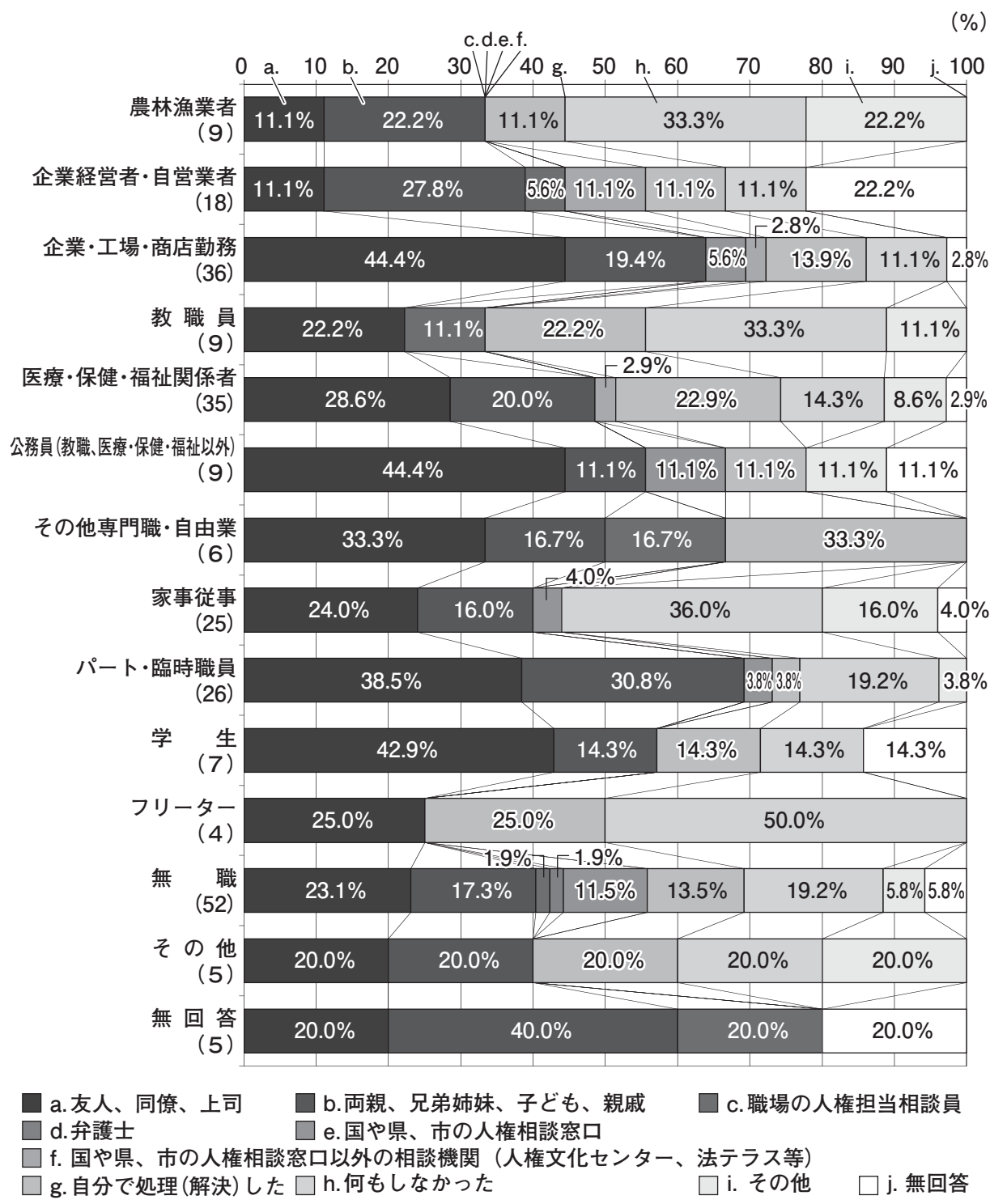
(%)



- a. 友人、同僚、上司 ■ b. 両親、兄弟姉妹、子ども、親戚 ■ c. 職場の人権担当相談員
- d. 弁護士 ■ e. 国や県、市の人権相談窓口
- f. 国や県、市の人権相談窓口以外の相談機関（人権文化センター、法テラス等）
- g. 自分で処理（解決）した ■ h. 何もなかった ■ i. その他 □ j. 無回答

○ **職業別** [図19] にみると、「a. 友人、同僚、上司」は学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員並びに民間企業や工場、商店に勤める人がいずれも44.4%と最も高い。次いで学生(42.9%)、パート・臨時職員(38.5%)の順に高くなっている。「b. 両親、兄弟姉妹、子ども、親戚」はパート・臨時職員(30.8%)が最も高く、次いで企業経営者・自営業者(27.8%)が高い。一方、「g. 自分で処理(解決)した」はその他専門職・自由業(33.3%)が最も高く、フリーター(25.0%)、医療・保健・福祉関係者(22.9%)、学校の教職員(22.2%)の順に高い。「h. 何もしなかった」はフリーター(50.0%)、主として家事に従事(36.0%)、農林漁業者(33.3%)、学校の教職員(33.3%)が高くなっている。職場の人権担当相談員及び行政等の人権相談窓口や機関は、その他専門職・自由業(16.7%)、学校の教職員(11.1%)、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(11.1%)の順になっている。

図19

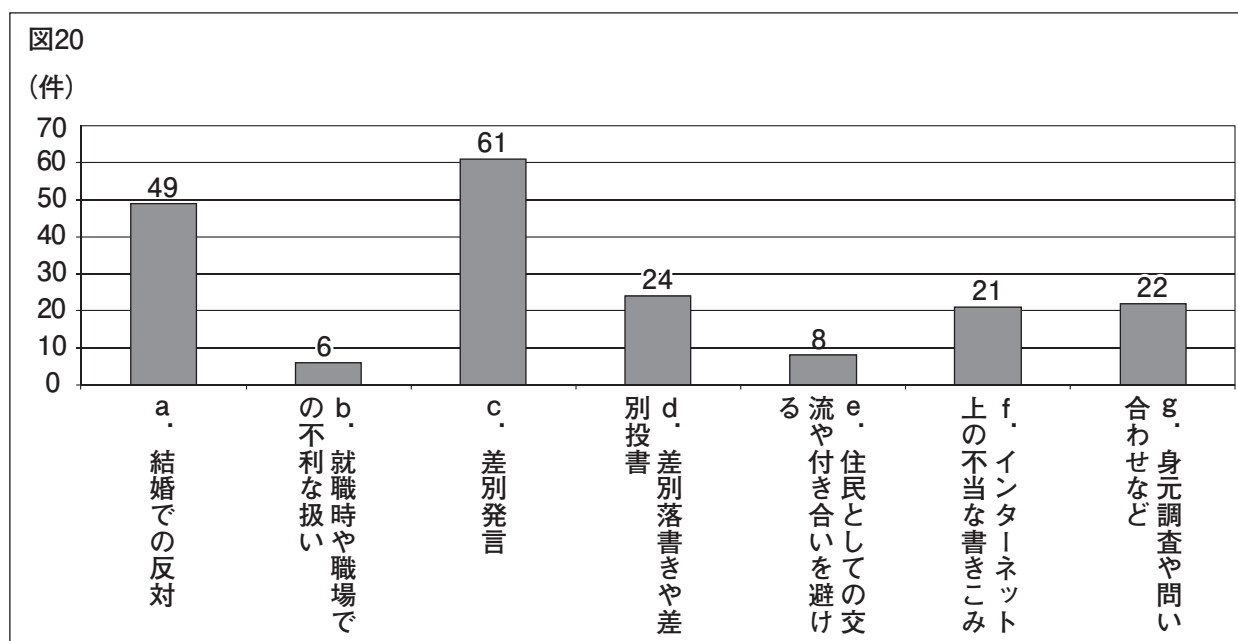


質問4-① あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、同和地区（被差別部落）の人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

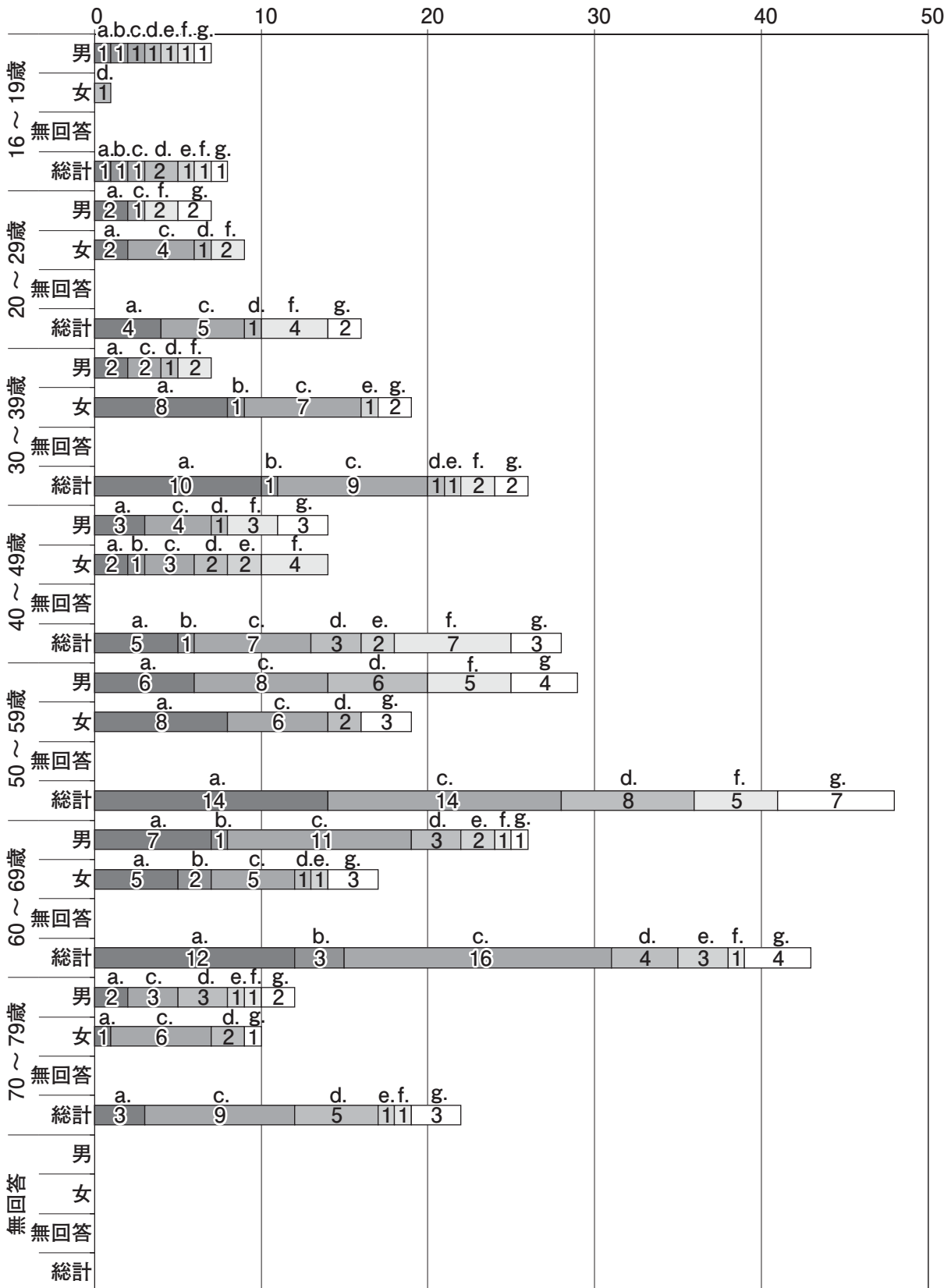
- 無回答が77.9%。回答件数191件のうち「c.差別発言」（61件）が31.9%と最も多く、次いで「a.結婚での反対」（49件）が25.7%、「d.差別落書きや差別投書」（24件）が12.6%、「g.身元調査や問い合わせなど」（22件）が11.5%、「f.インターネット上の不当な書き込み」（21件）が11.0%となっている。
[図20]



- **性別** [図21] でみると、男性が回答件数で13件女性を上回っている。また、「d.差別落書きや差別投書」、「f.インターネット上の不当な書き込み」、「g.身元調査や問い合わせなど」では男性が女性を上回っている。「a.結婚での反対」、「b.就職時や職場での不利な扱い」、「差別発言」は女性が上回っている。
- **年齢階層別** [図21] でみると、年齢が上がるにつれ増加し、50～59歳が最も多くなっている。

図21

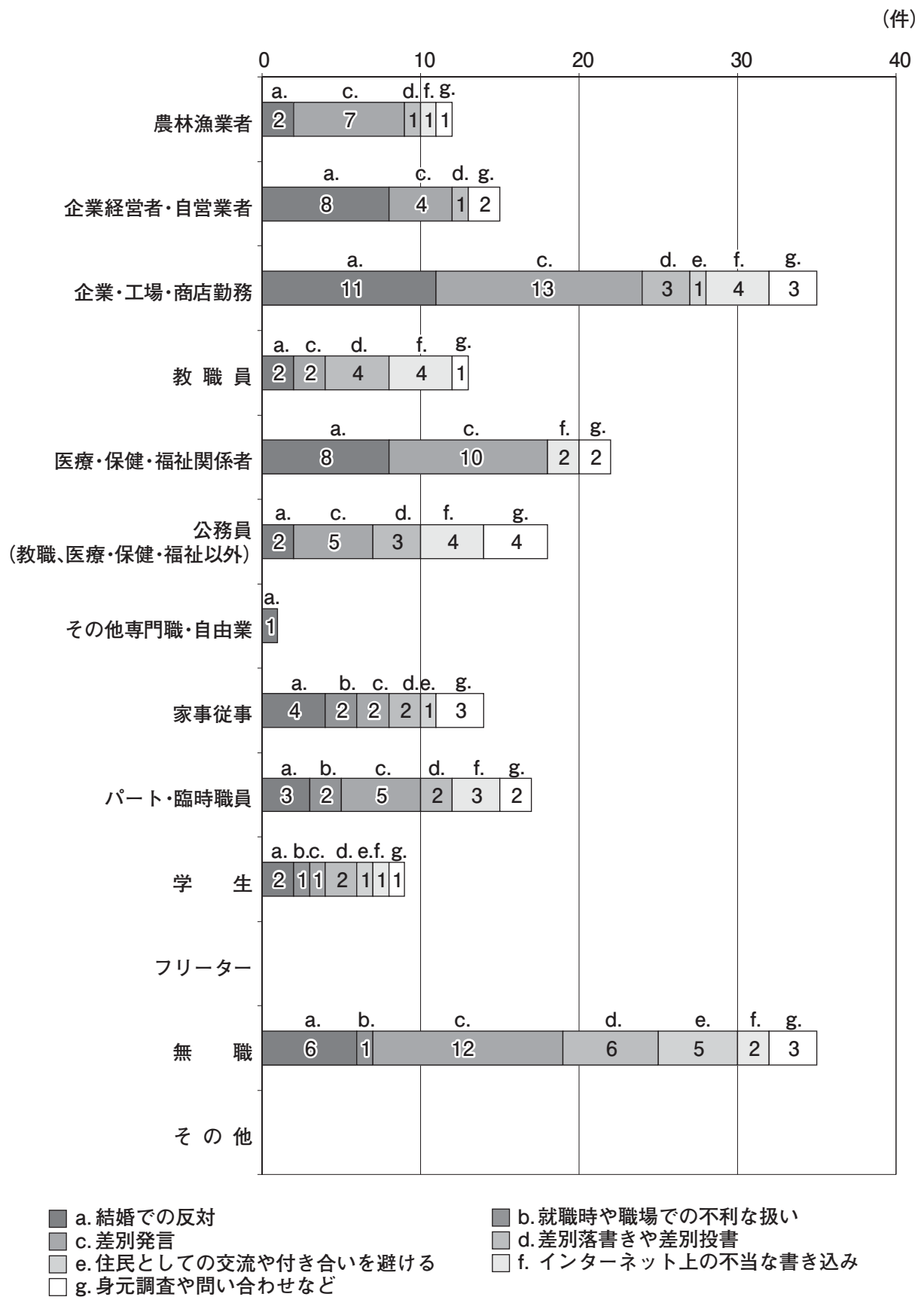
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ **職業別** [図22] でみると、民間企業や工場、商店に勤める人 35 件、無職 35 件が最も多く、次いで医療・保健・福祉関係者 22 件、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員 18 件、パート・臨時職員 17 件の順で多い。

図22

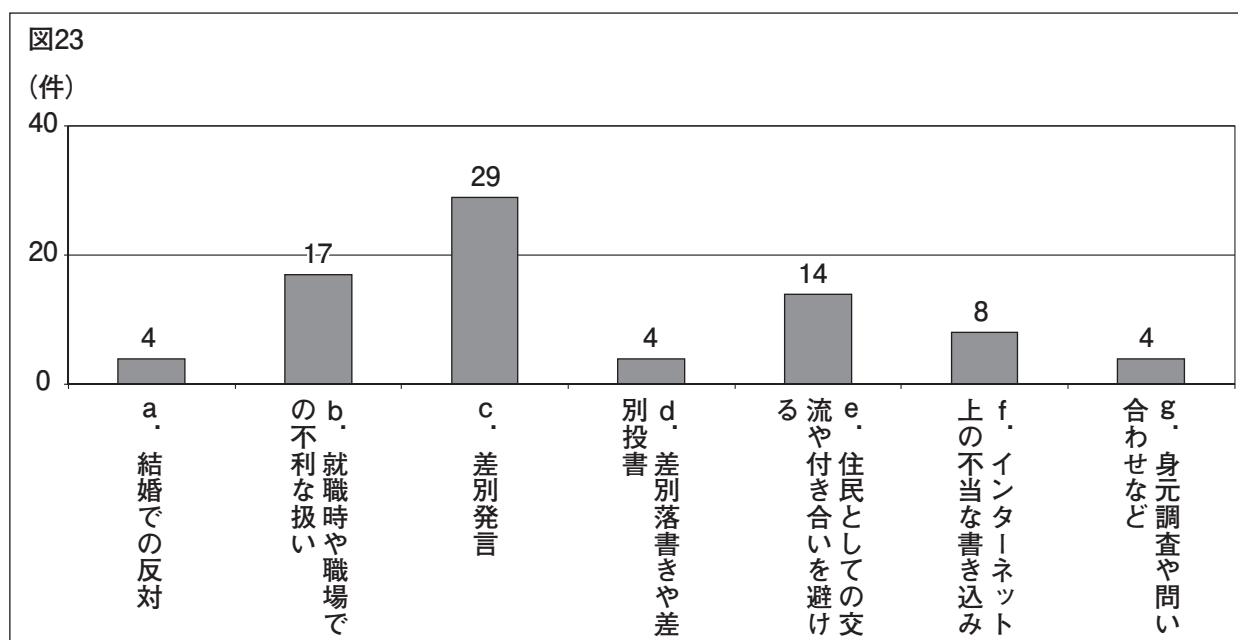


質問4-② あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、身体障がいのある人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が90.2%。回答件数(80件)のうち「c.差別発言」(29件)が36.3%と最も多く、次いで「b.就職時や職場での不利な扱い」(17件)が21.3%、「e.住民としての交流や付き合いを避ける」(14件)が17.5%、「f.インターネット上の不当な書き込み」(8件)が10.0%などである。[図23]

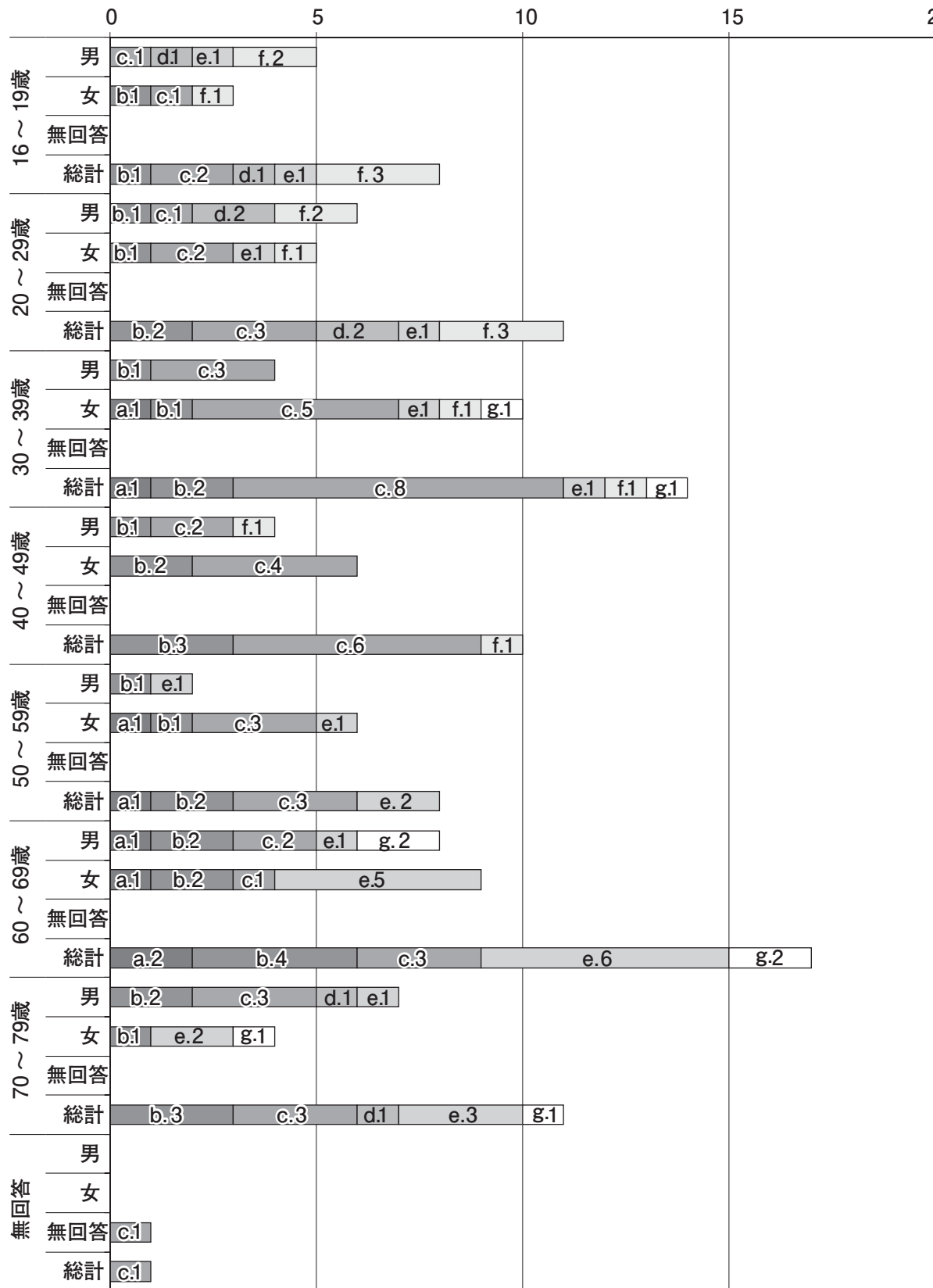


○ **性別** [図24] でみると、女性が回答件数で7件男性を上回っている。また、「c.差別発言」、「e.住民としての交流や付き合いを避ける」は女性が男性を上回っている。「d.差別落書きや差別投書」、「f.インターネット上の不当な書き込み」は男性が女性を上回っている。

○ **年齢階層別** [図24] にみると、60～69歳17件が最も多く、次いで30～39歳14件が多くなっている。60～69歳では「e.住民としての交流や付き合いを避ける」が3分の1以上、30～39歳は「c.差別発言」が約6割を占めている。

図24

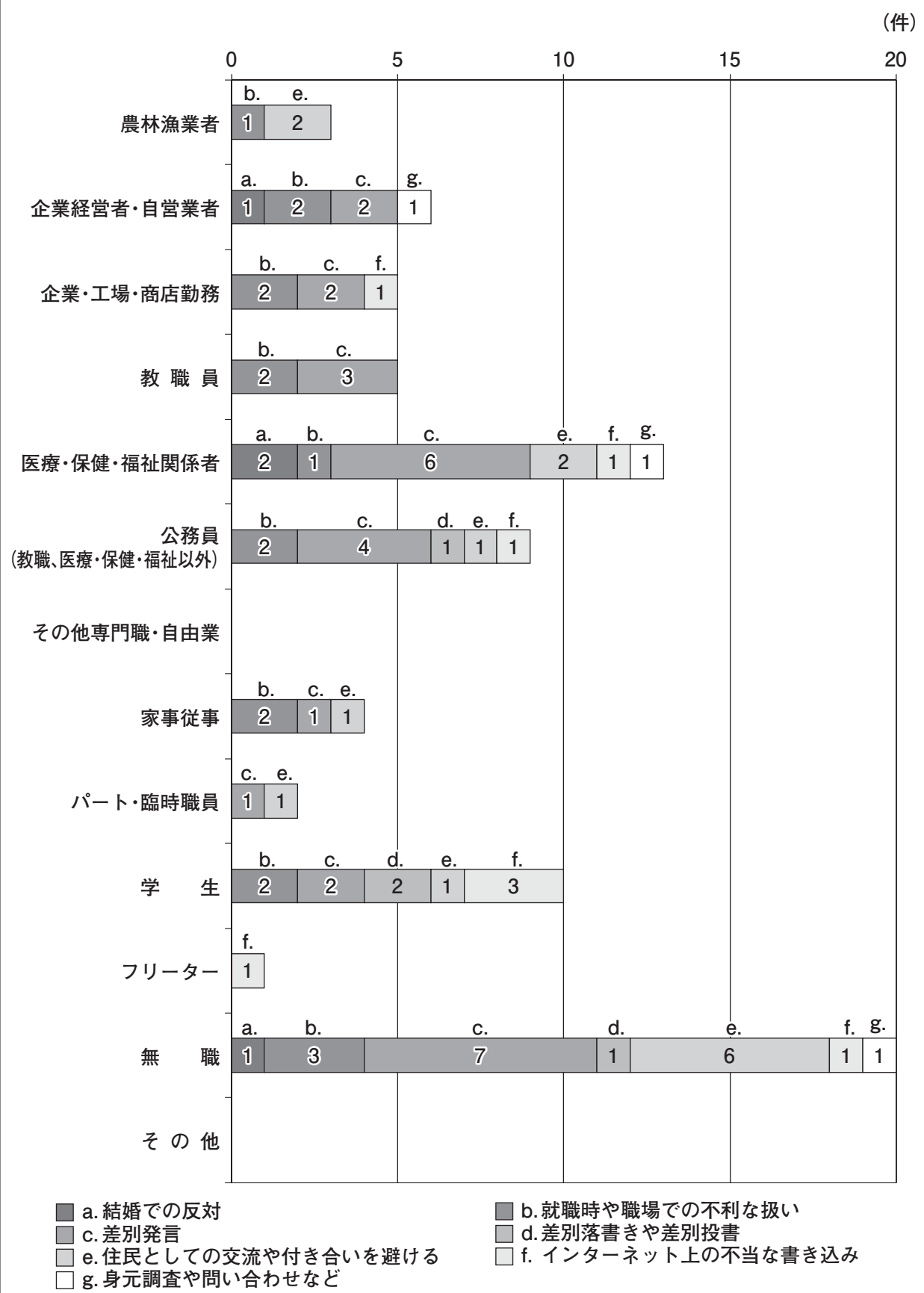
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

- **職業別** [図25] にみると、無職20件が最も多く、次いで医療・保健・福祉関係者13件、学生10件、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員9件などとなっている。内容は「c. 差別発言」が最も多く、次いで「b. 就職時や職場での不利な扱い」が多い。

図25

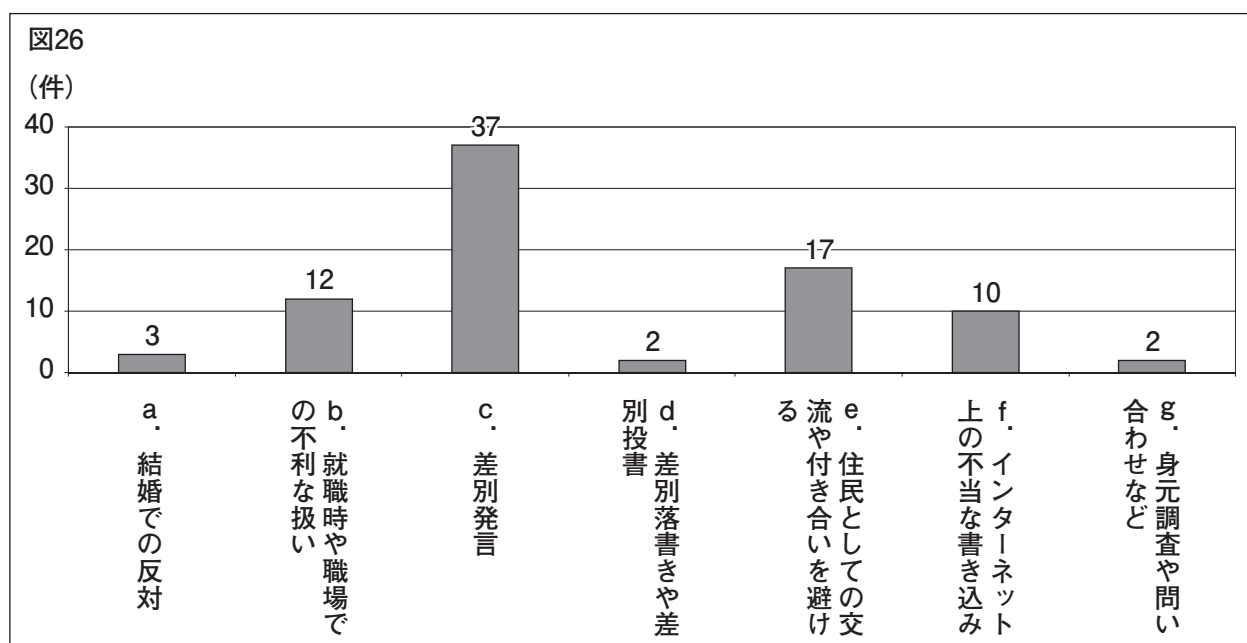


質問4-③ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、知的障がいのある人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

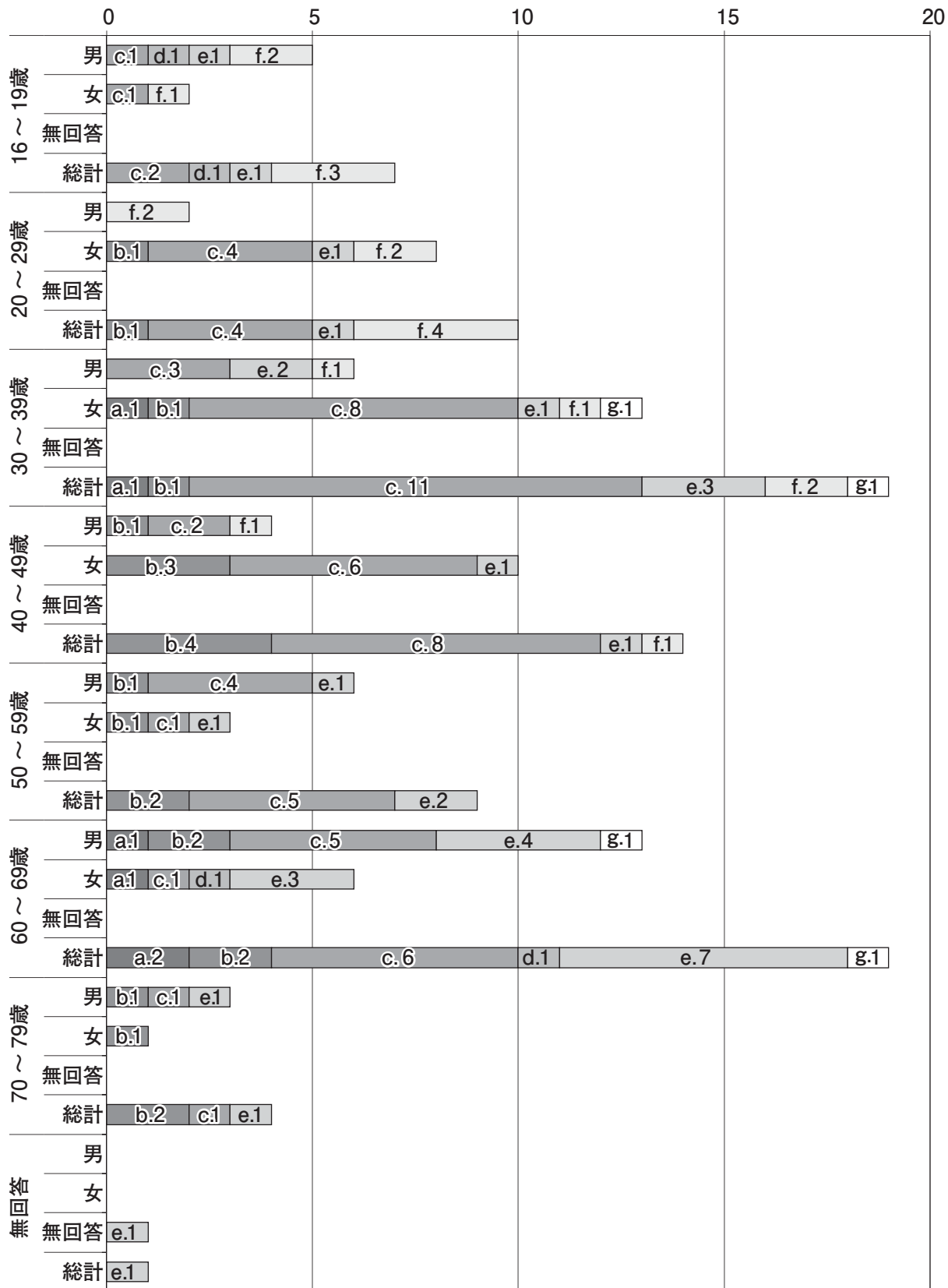
○ 無回答が89.8%。回答件数83件のうち「c. 差別発言」(37件)が44.6%、「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」(17件)が20.5%を占めている。[図26]



- **性別** [図27] にみると、女性が回答件数で男性より4件多く、内容としては「c. 差別発言」が5件多い。
- **年齢階層別** [図27] にみると、30～39歳と、60～69歳がともに19件で最も多い。30～39歳では「c. 差別発言」11件、60～69歳では「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」7件が多い。

図27

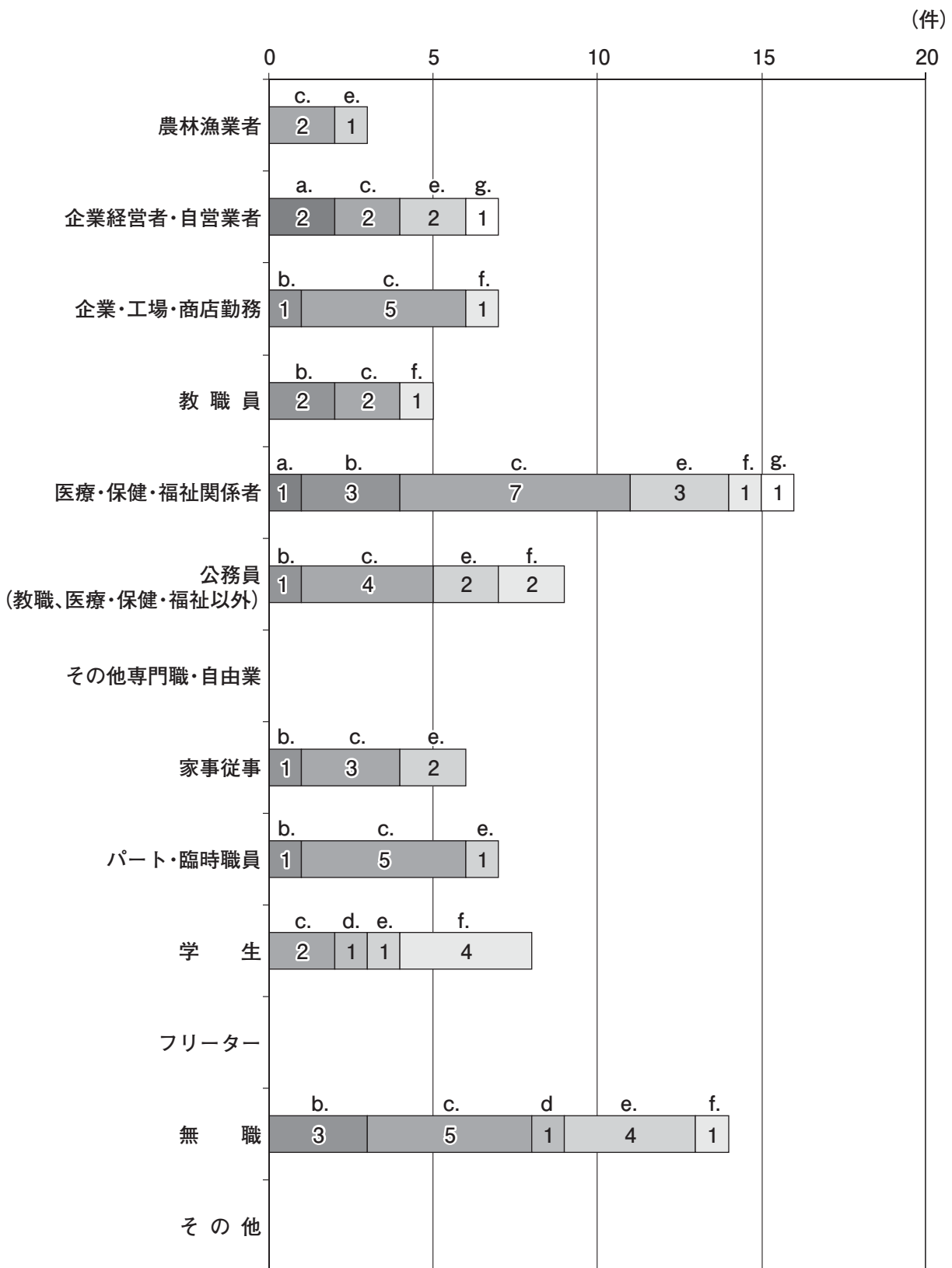
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ 職業別 [図28] にみると、医療・保健・福祉関係者16件が最も多く、次いで無職14件となっている。

図28



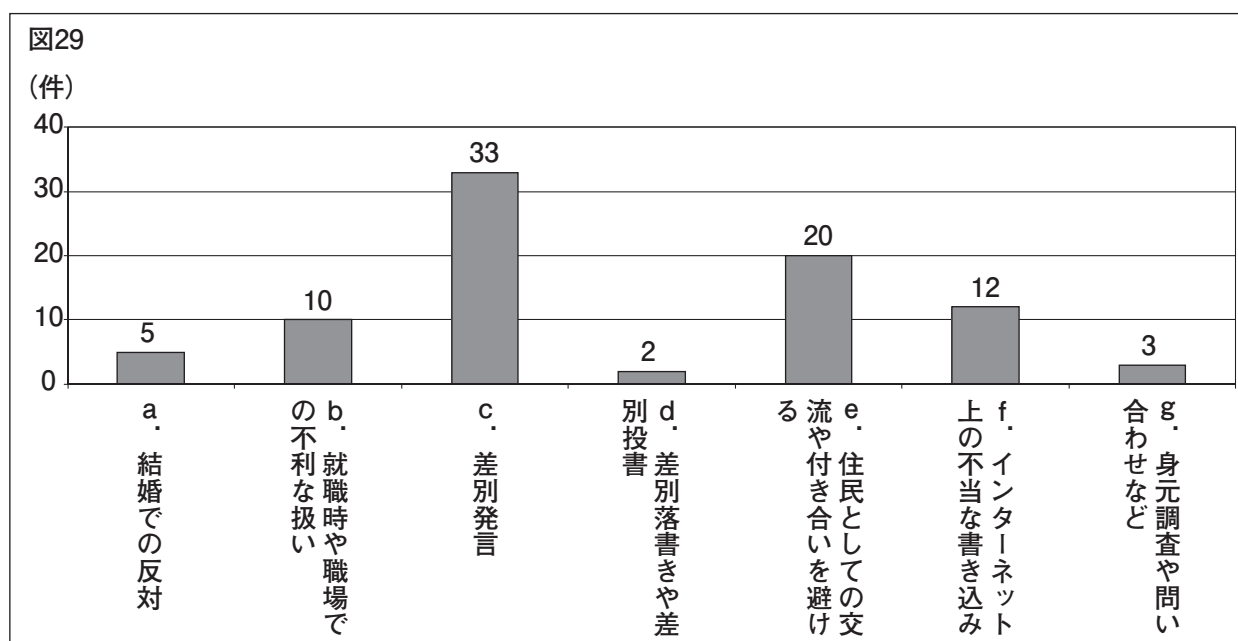
- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

質問4-④ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、精神障がいのある人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が89.6%。回答件数85件のうち「c. 差別発言」(33件)が38.8%、「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」(20件)が23.5%を占めている。[図29]

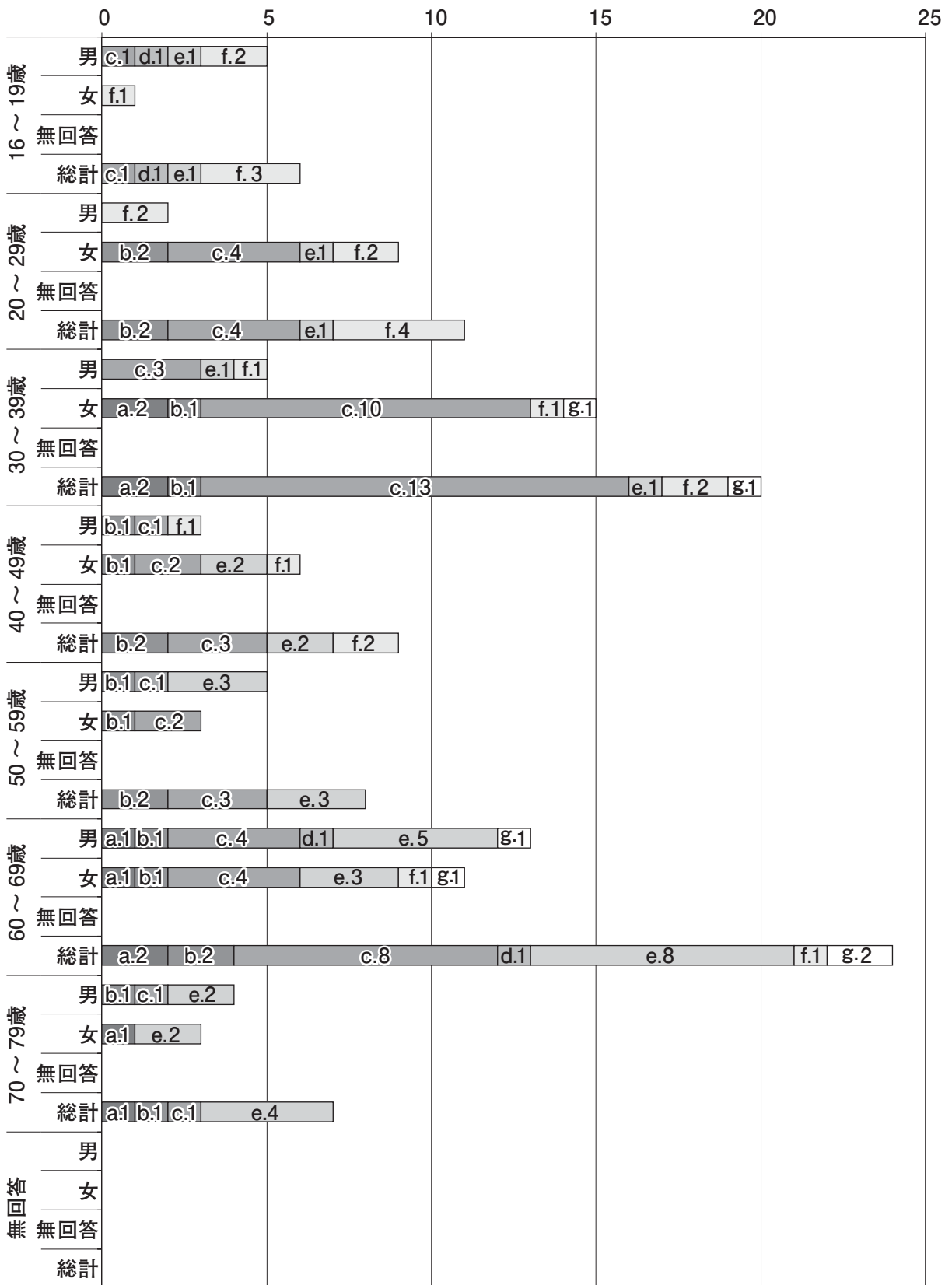


○ **性別** [図30] にみると、女性が回答件数で男性より多く、内容としては「c. 差別発言」が11件多い。

○ **年齢階層別** [図30] にみると、60～69歳24件が最も多く、次いで30～39歳20件の順に多い。60～69歳は「c. 差別発言」、「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」がそれぞれ8件、30～39歳は「c. 差別発言」が13件である。

図30

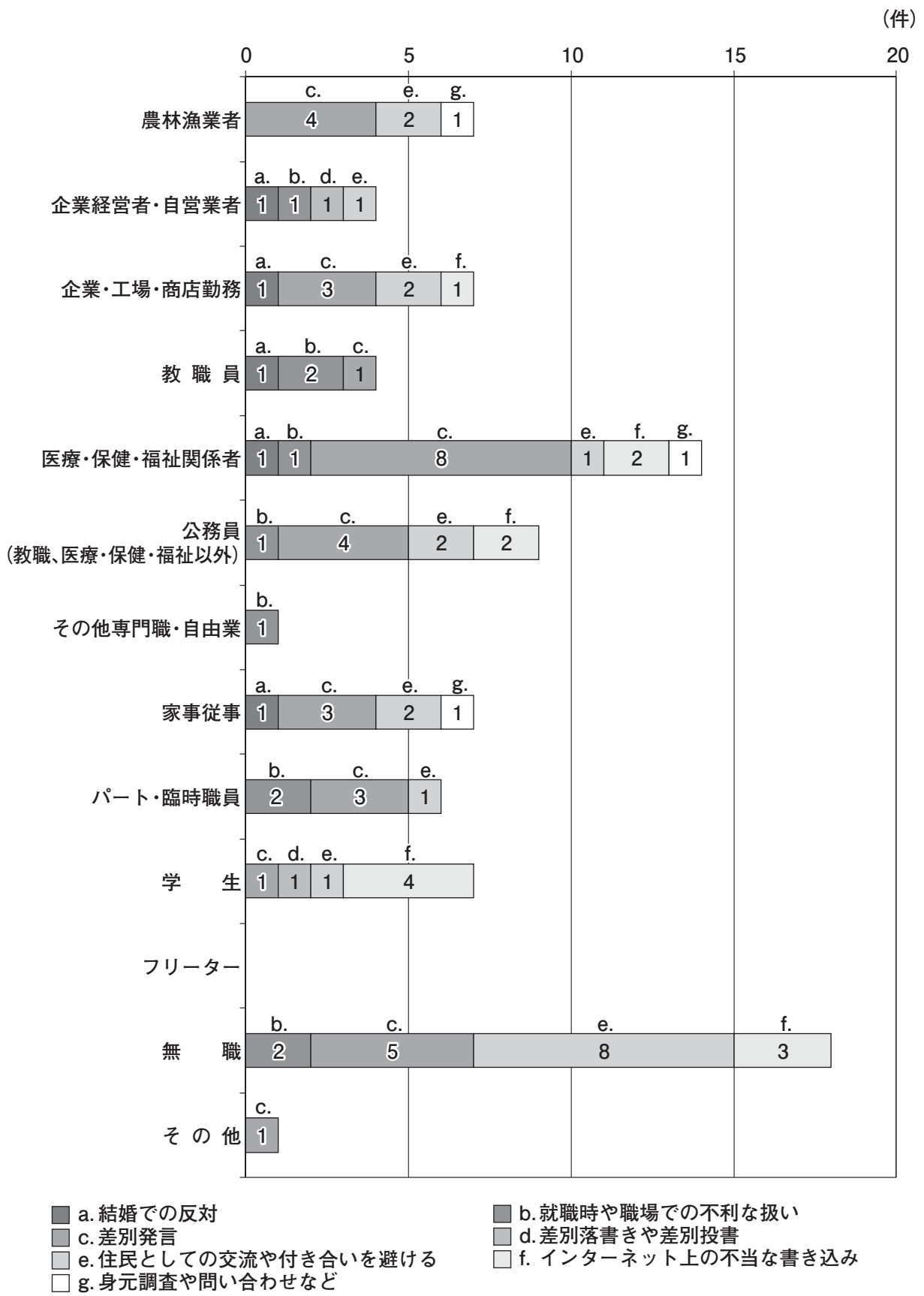
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ **職業別** [図31] にみると、無職18件が最も多く、次いで医療・保健・福祉関係者14件の順に多い。無職は「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」が45%を占め、医療・保健・福祉関係者は「c. 差別発言」が57%を占めている。

図31

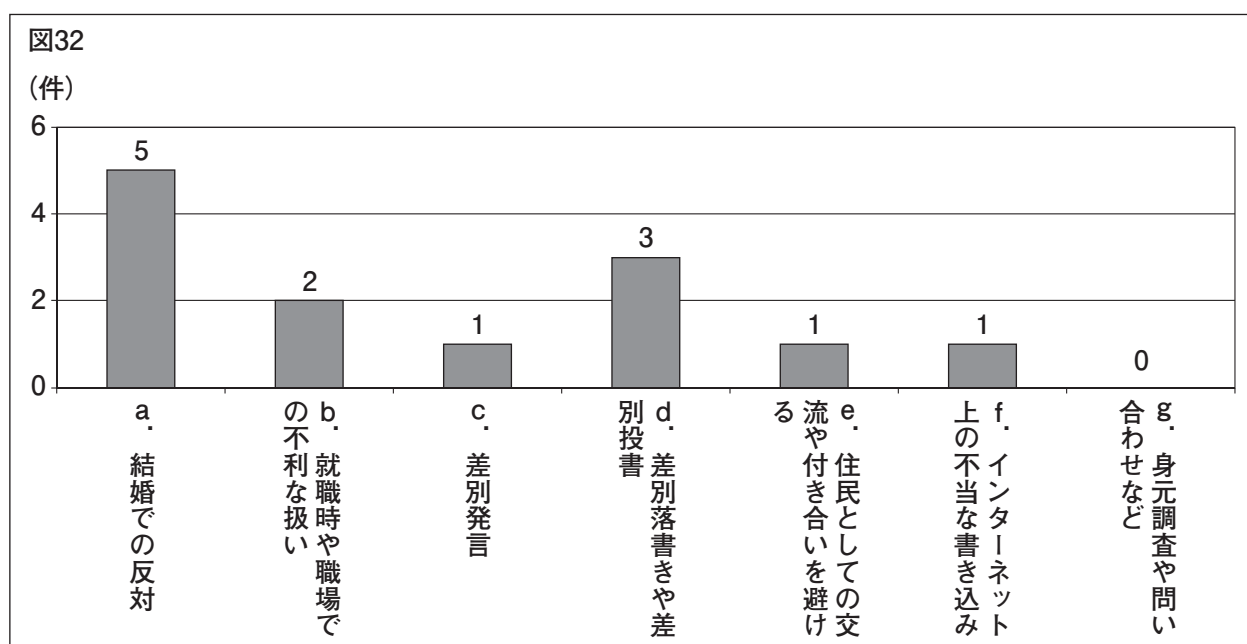


質問4-⑤ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、アイヌ先住民族に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が98.4%。回答件数13件のうち「a. 結婚での反対」が5件である。〔図32〕

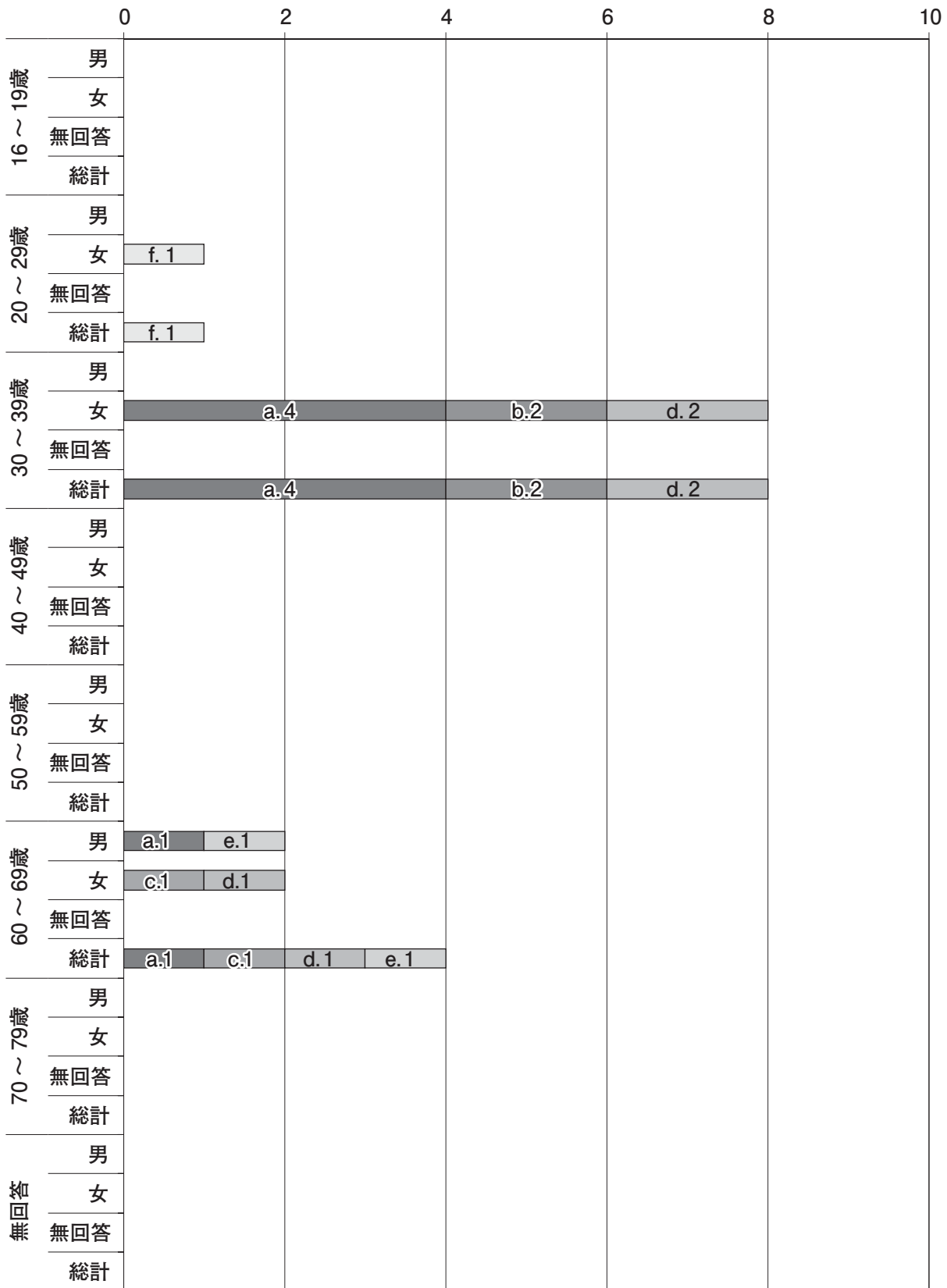


○ 性別〔図33〕で見ると、女性が11件、男性2件である。

○ 年齢階層別〔図33〕にみると、30～39歳が8件、60～69歳4件、20～29歳1件である。

図33

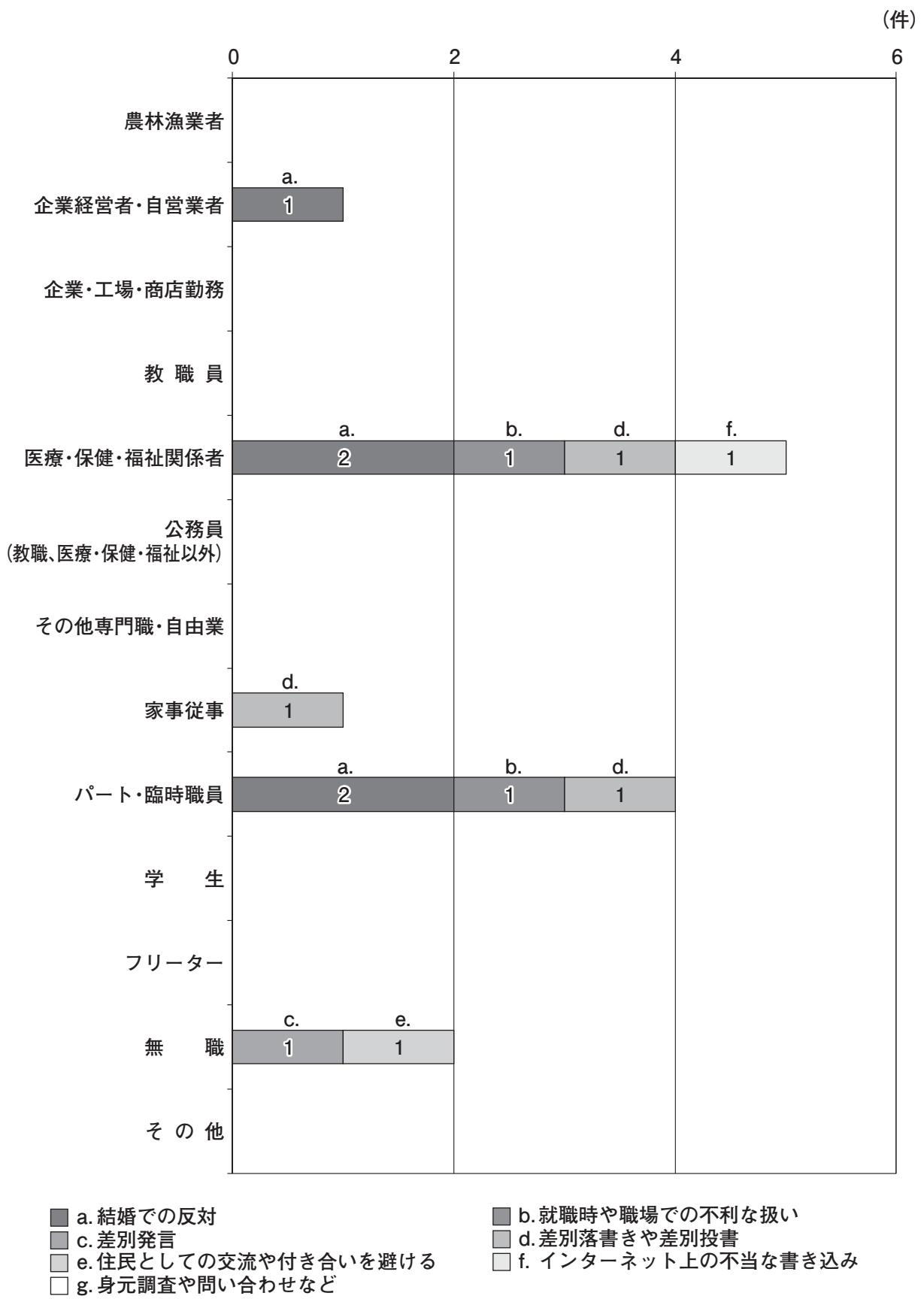
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ 職業別 [図34] にみると、医療・保健・福祉関係者5件、パート・臨時職員4件、無職2件、企業経営者・自営業1件である。

図34

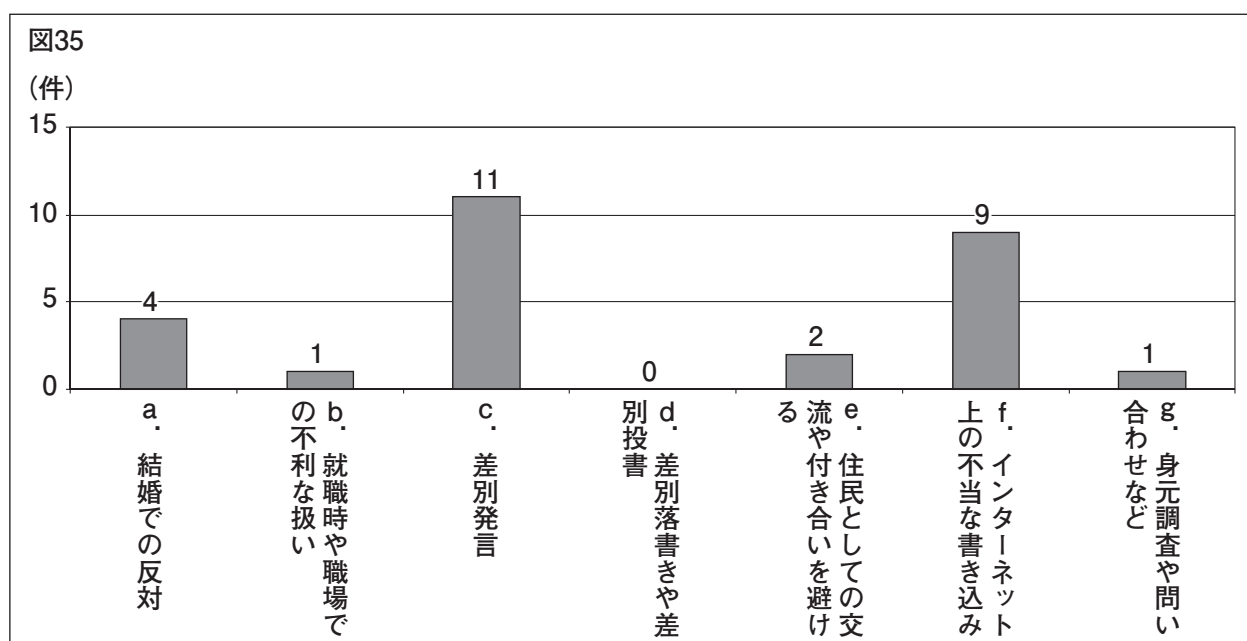


質問4-⑥ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、外国にルーツを持つ人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が96.5%。回答件数28件のうち「c. 差別発言」(11件)が39.3%、「f. インターネット上の不当な書き込み」(9件)が32.1%を占めている。[図34]

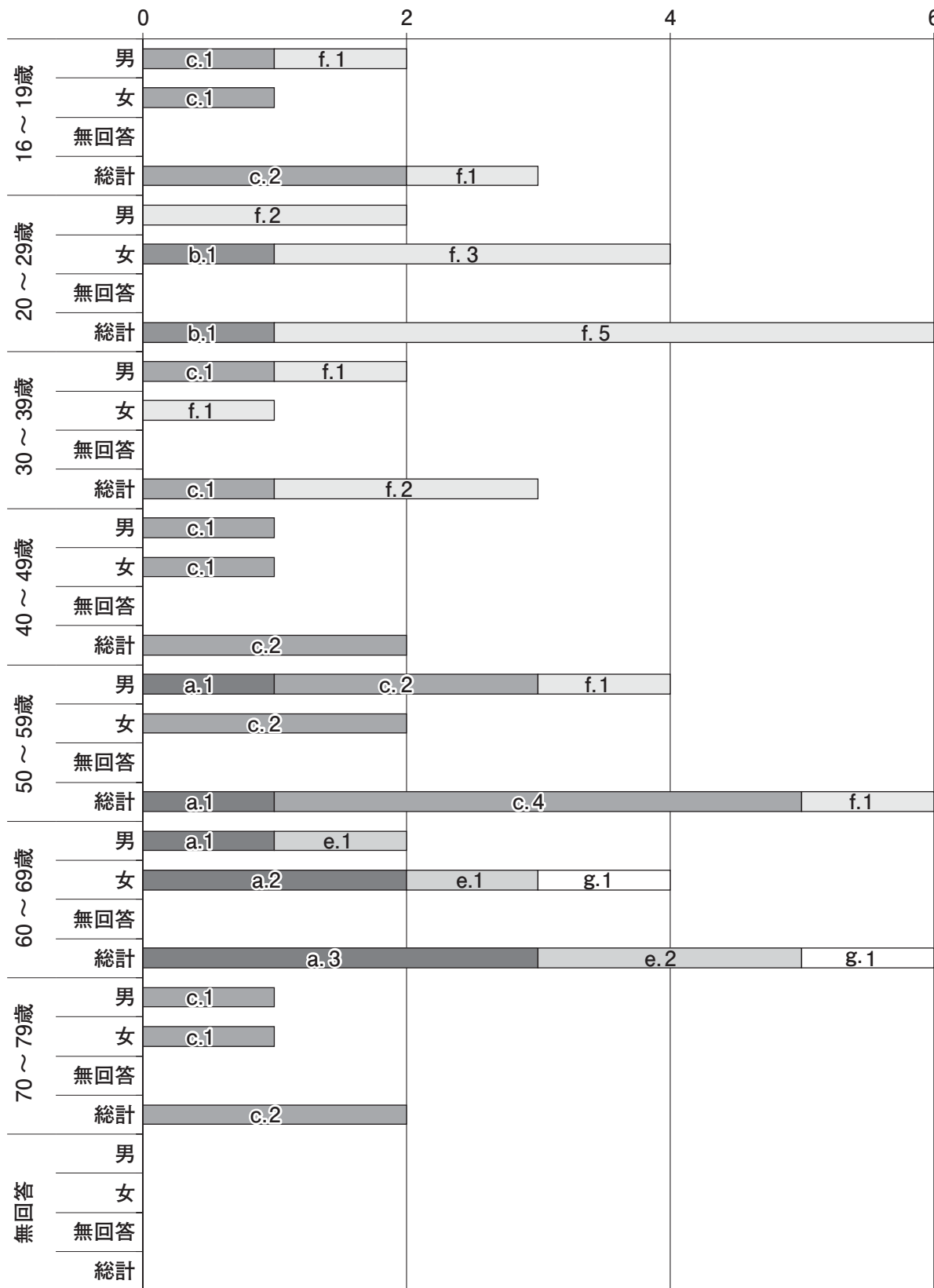


○ 性別 [図36] でみると、男性、女性とも14件、人権侵害の内容も大差はない。

○ 年齢階層別 [図36] にみると、20~29歳、50~59歳、60~69歳ともに6件である。20~29歳は「f. インターネット上の不当な書き込み」が5件、50~59歳は「c. 差別発言」が4件、60~69歳は「a. 結婚での反対」が3件である。

図36

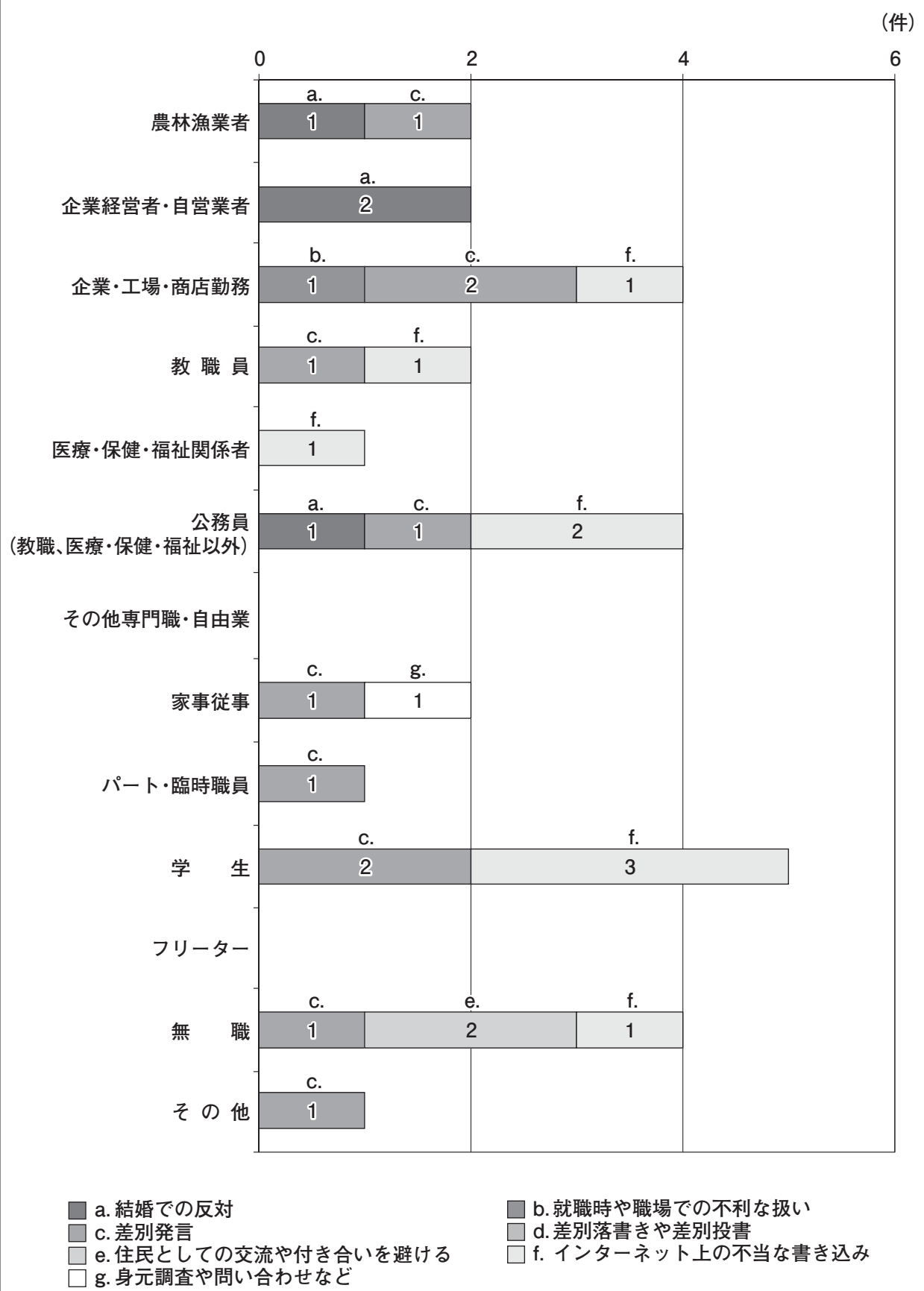
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ **職業別** [図37] にみると、学生5件、民間企業や工場、商店に勤める人、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員、無職はそれぞれ4件である。学生及び学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員は「f. インターネット上の不当な書き込み」が多い。

図37

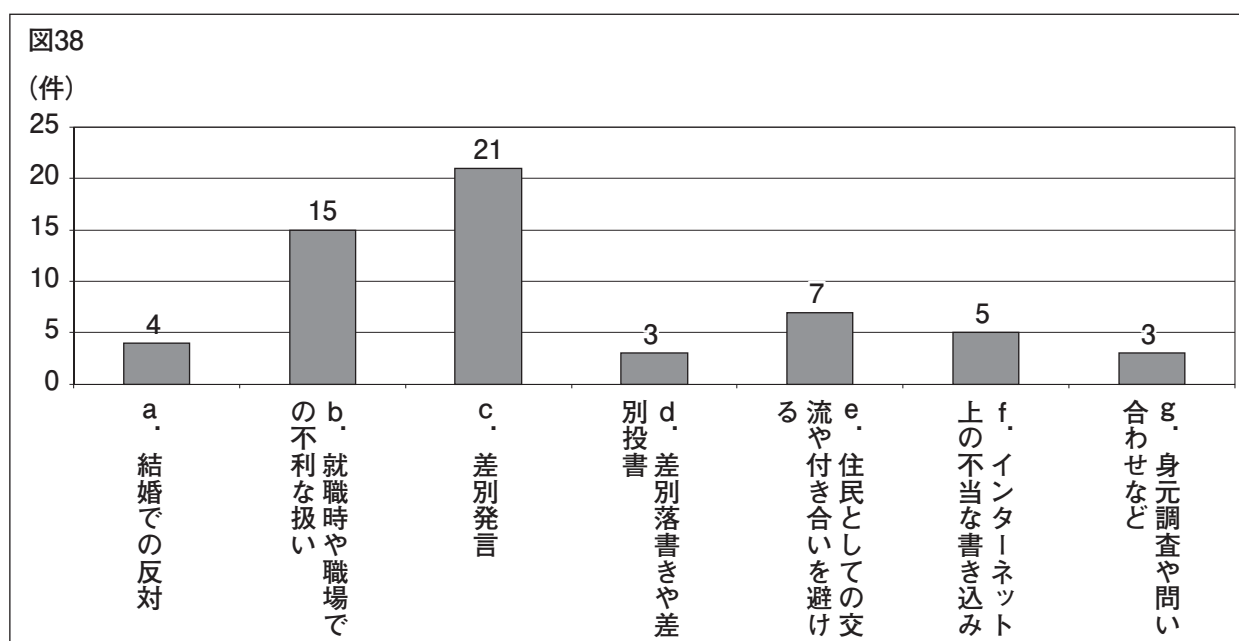


質問4-⑦ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、病気にかかわる人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が92.9%。回答件数58件のうち「c. 差別発言」(21件)が36.2%、「b. 就職時や職場での不利な扱い」(15件)が25.9%を占めている。[図38]

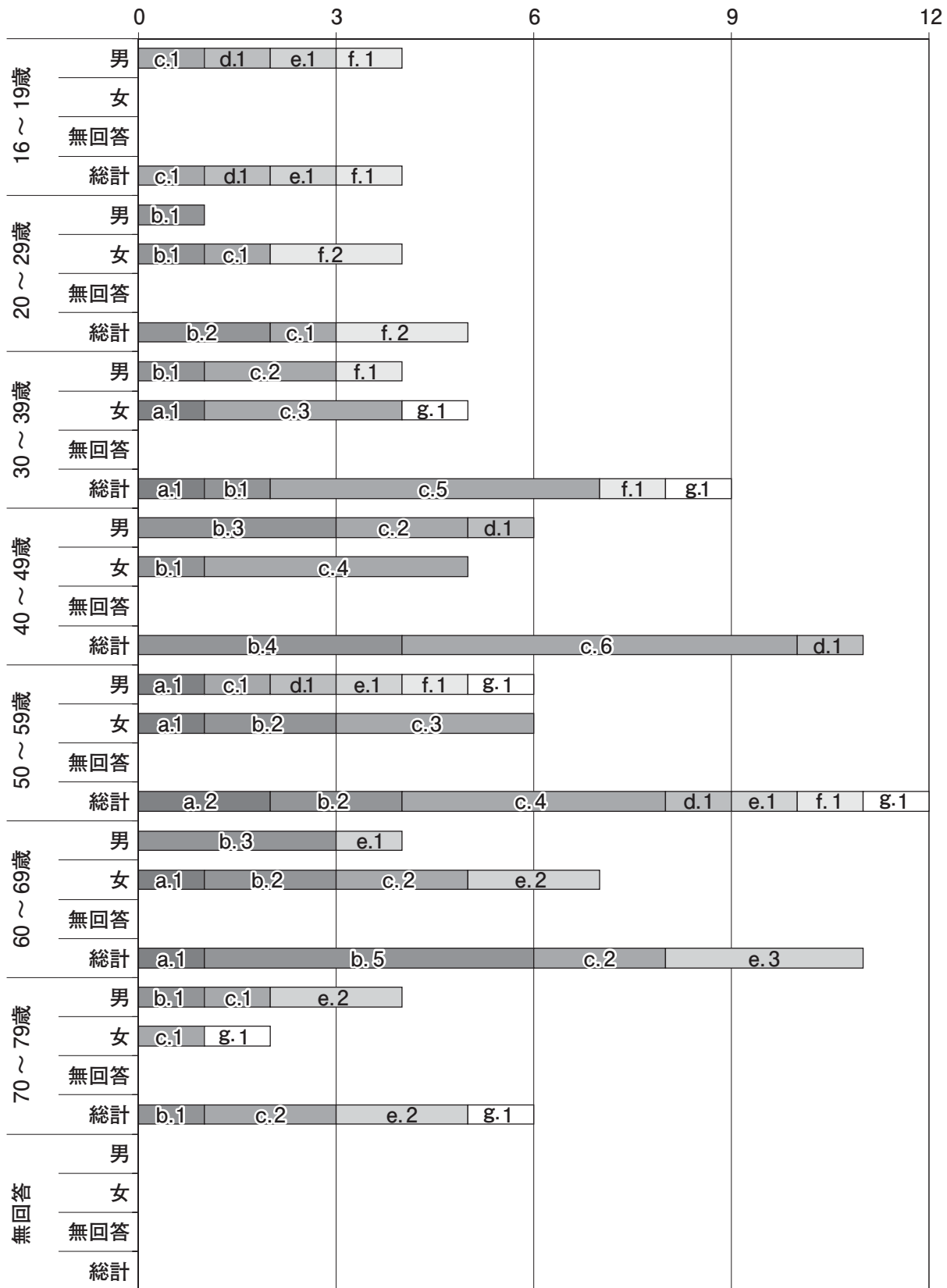


○ 性別 [図39] でみると、男性、女性ともに29件で、「b. 就職時や職場での不利な扱い」は男性が女性より3件多く、「c. 差別発言」は女性が7件多くなっている。

○ 年齢階層別 [図39] にみると、50～59歳12件が最も多く、次いで40～49歳、60～69歳が多い。

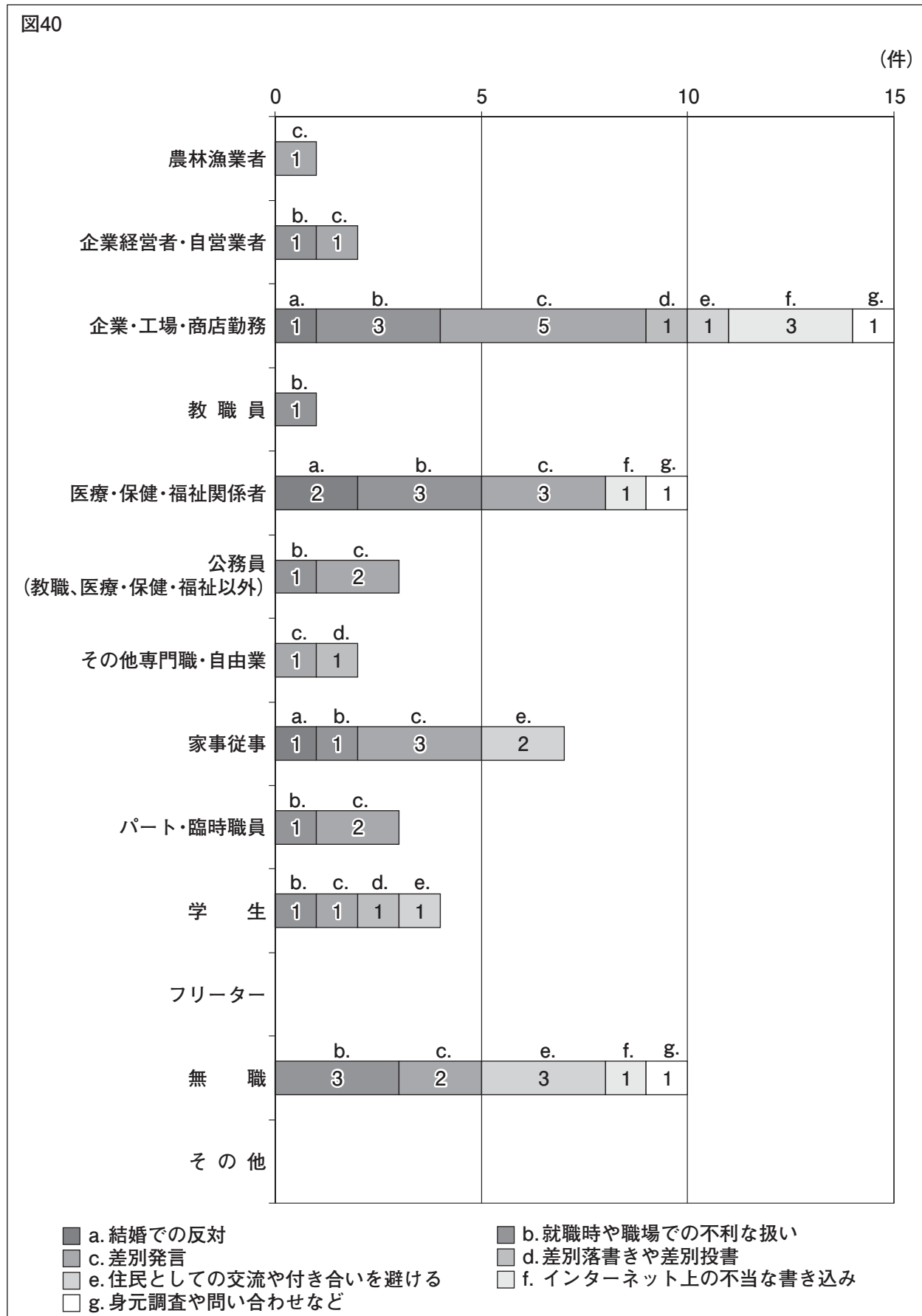
図39

(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ 職業別 [図40] にみると、民間企業や工場・商店に勤める人15件が最も多く、医療・保健・福祉関係者10件、無職10件が多くなっている。

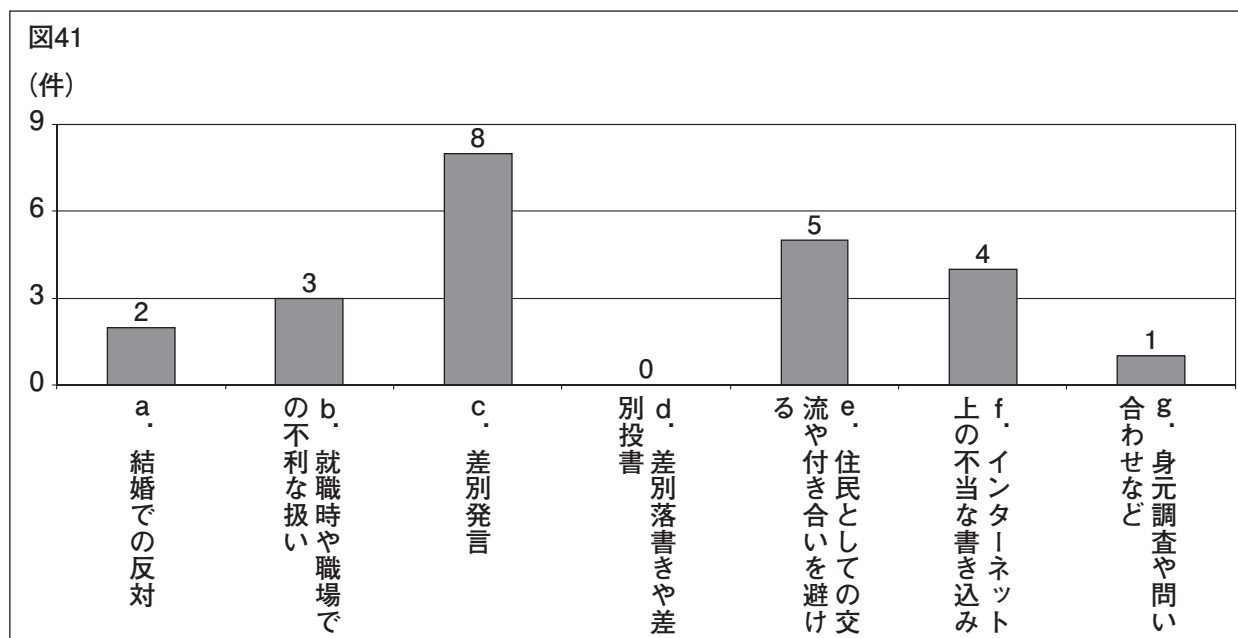


質問4-⑧ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、刑を終えて出所した人に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が97.1%。回答件数23件のうち「c. 差別発言」(8件)が34.8%、「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」(5件)が21.7%、「f. インターネット上の不当な書き込み」(4件)が17.4%を占めている。[図41]

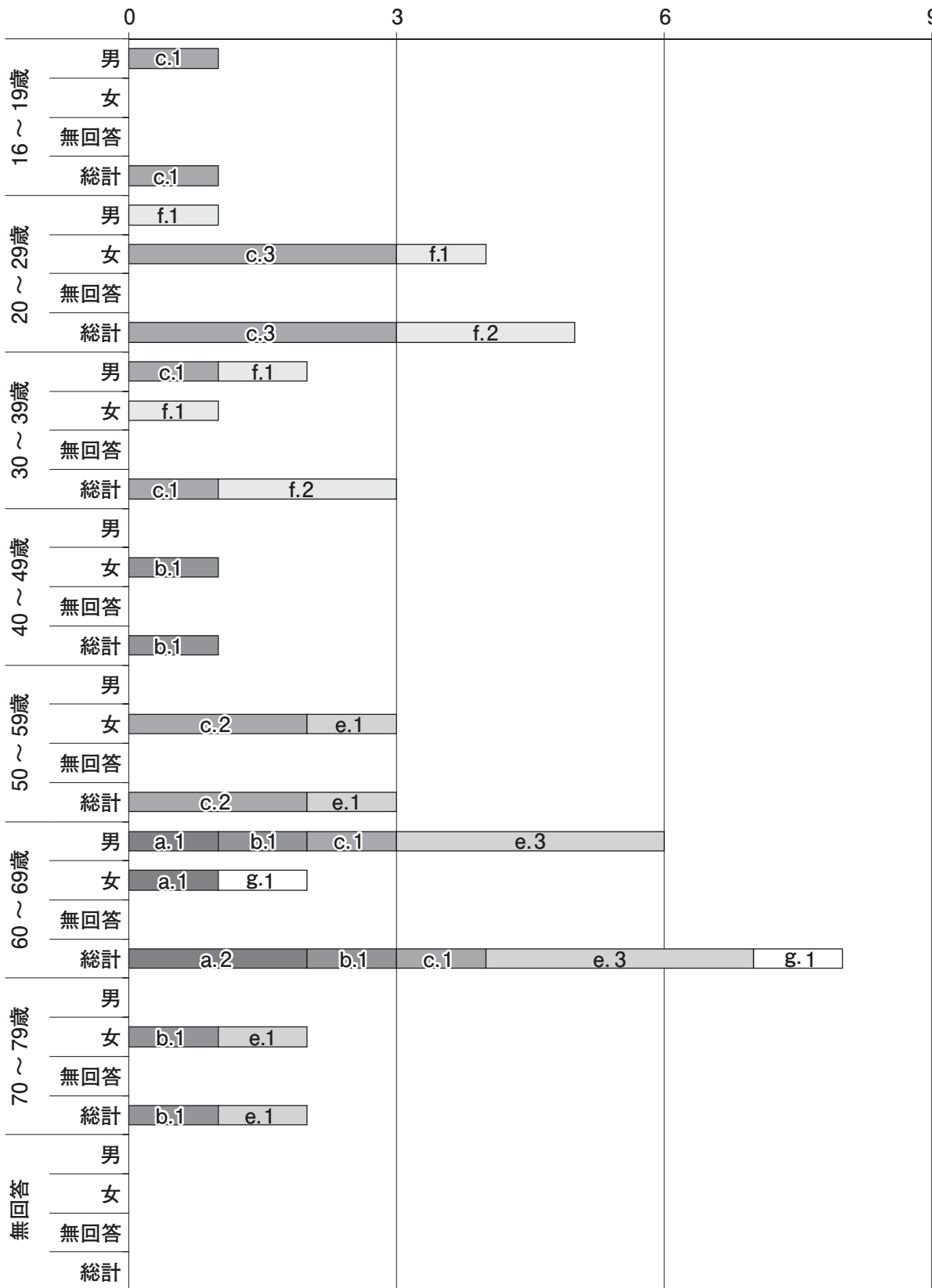


○ 性別 [図42] でみると、女性は13件で男性より3件多い。

○ 年齢階層別 [図42] にみると、60~69歳8件が最も多い。

図42

(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

- 職業別 [図43] にみると、企業経営者・自営業者、医療・保健・福祉関係者、主として家事に従事、無職がそれぞれ4件である。医療・保健・福祉関係者は「c. 差別発言」、無職は「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」が75%を占めている。

図43

	(件)				
	0	1	2	3	4
農林漁業者	a. 1	e. 1			
企業経営者・自営業者	a. 1	b. 1	c. 1	e. 1	
企業・工場・商店勤務	c. 1				
教職員					
医療・保健・福祉関係者		c. 3		f. 1	
公務員 (教職、医療・保健・福祉以外)	c. 1	f. 1			
その他専門職・自由業					
家事従事		b. 2	f. 1	g. 1	
パート・臨時職員					
学 生	c. 1	f. 1			
フリーター					
無 職	c. 1		e. 3		
そ の 他					

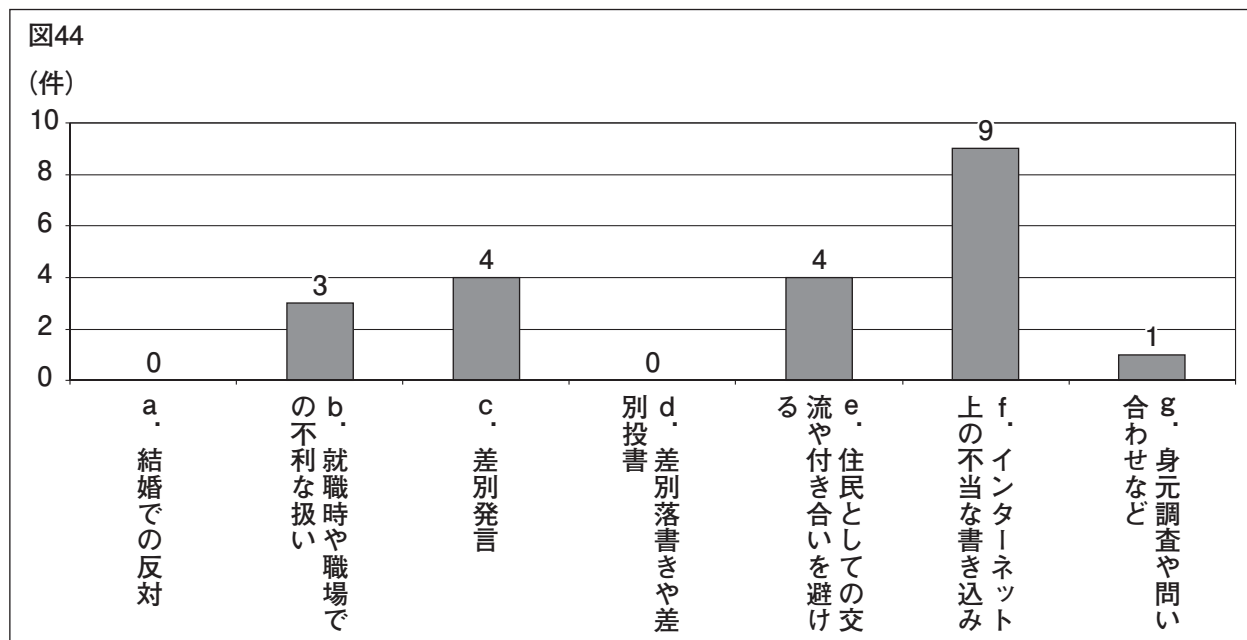
■ a. 結婚での反対	■ b. 就職時や職場での不利な扱い
■ c. 差別発言	■ d. 差別落書きや差別投書
■ e. 住民としての交流や付き合いを避ける	■ f. インターネット上の不当な書き込み
■ g. 身元調査や問い合わせなど	

質問4-⑨ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、犯罪被害者やその家族に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が97.4%。回答件数21件のうち「f. インターネット上の不当な書き込み」（9件）が42.9%を占めている。[図44]

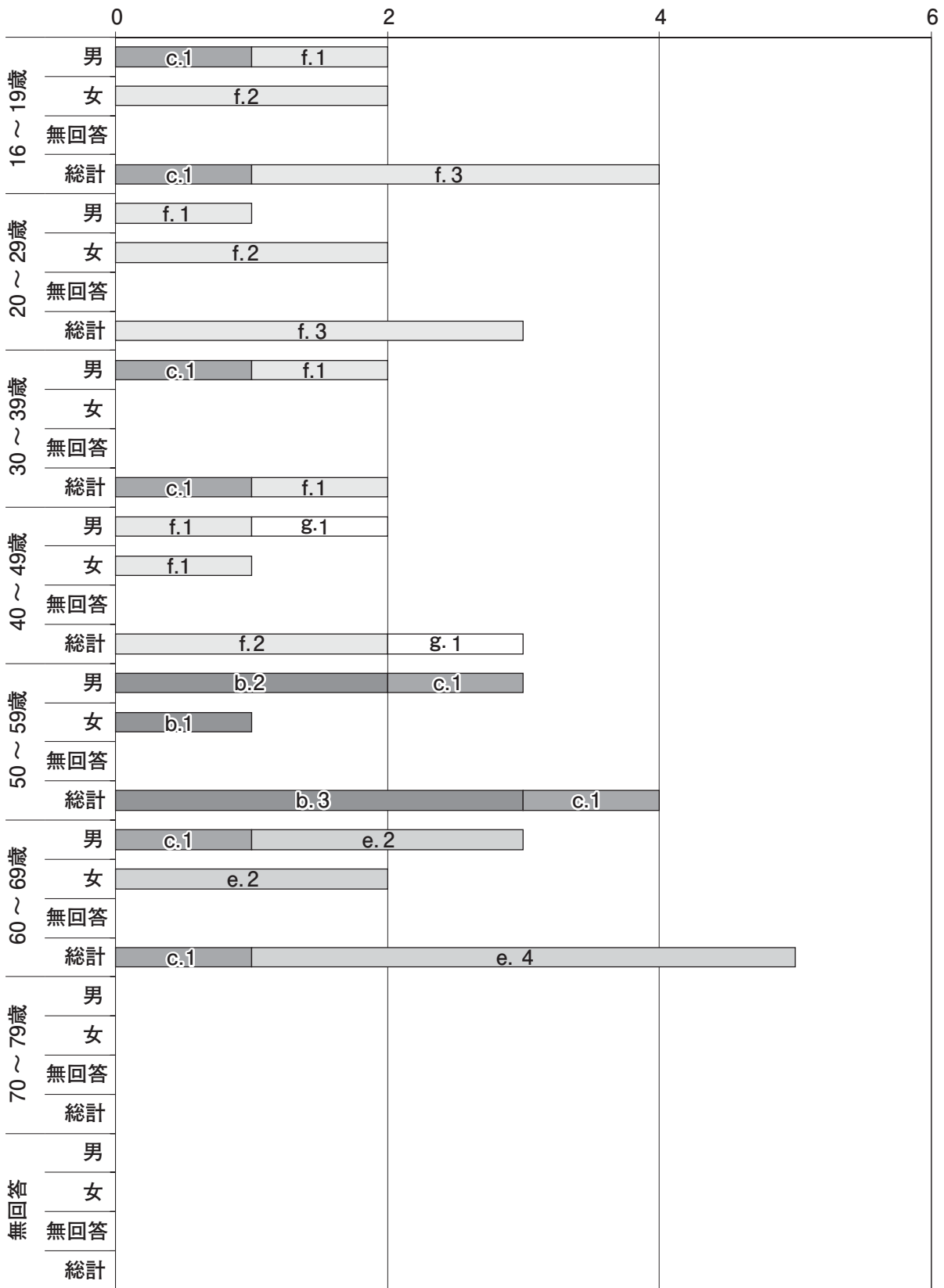


○ 性別 [図45] でみると、男性13件が女性より5件多い。

○ 年齢階層別 [図45] にみると、60～69歳が5件で、16～19歳、50～59歳はそれぞれ4件である。40～49歳以下の年齢層は「f. インターネット上の不当な書き込み」が多く、50～59歳は「b. 就職時や職場での不利な扱い」、60～69歳は「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」が多くなっている。

図45

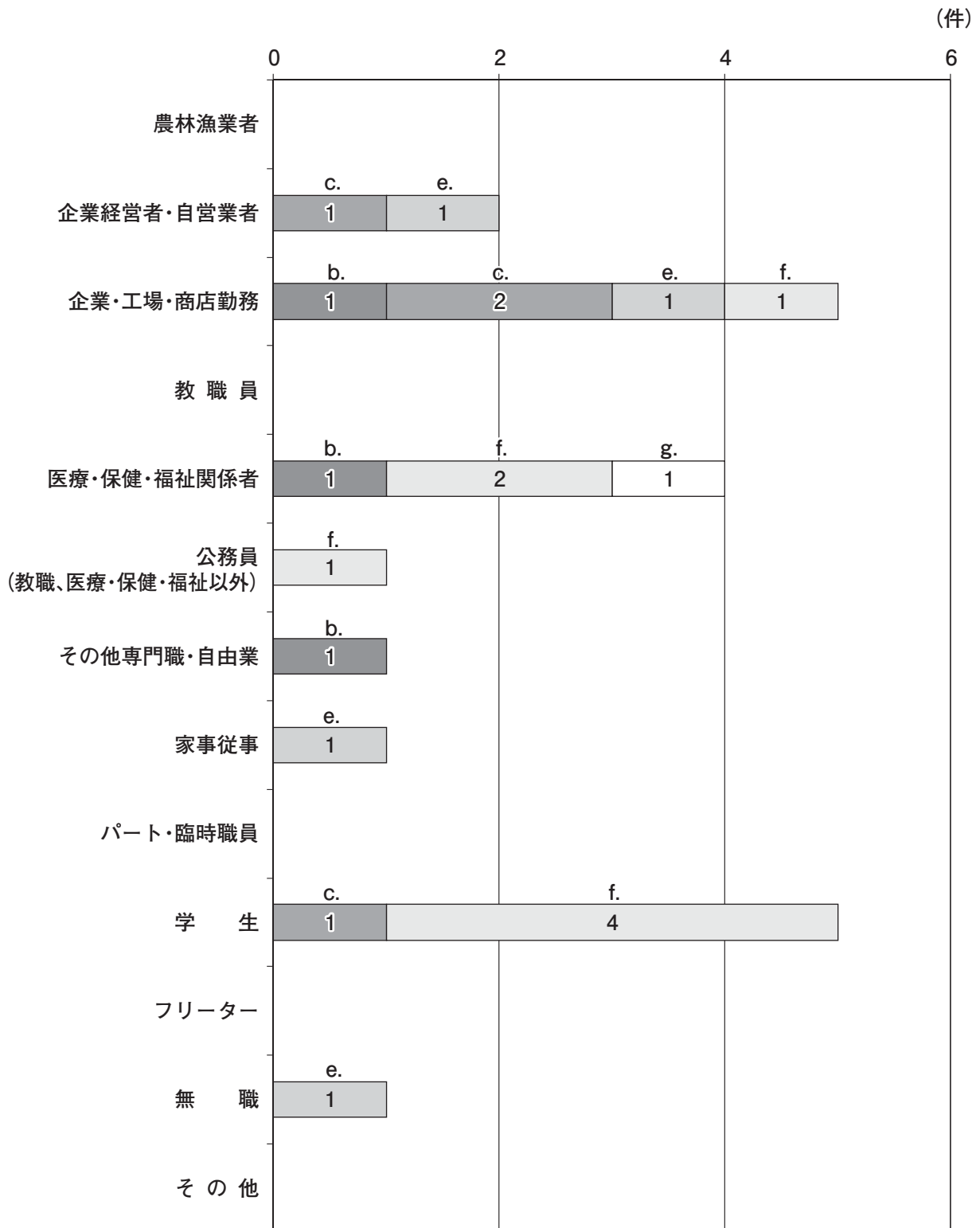
(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ 職業別 [図46] にみると、民間企業や工場・商店に勤める人、学生、医療・保健・福祉関係者が多くなっている。

図46



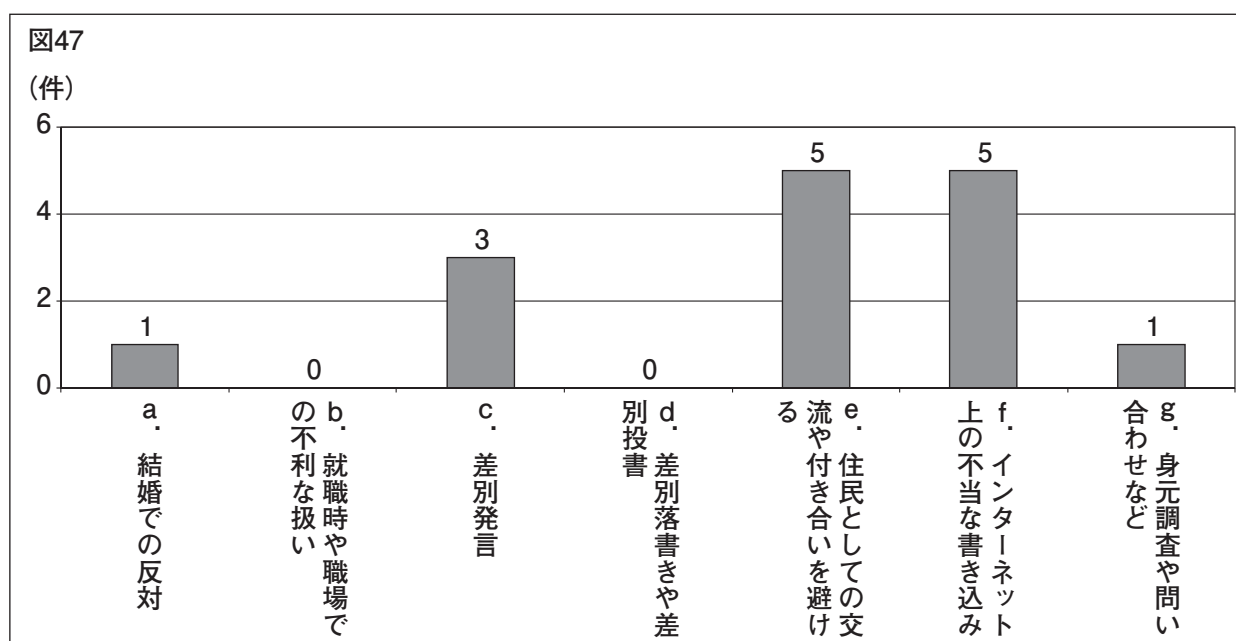
- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

質問4-⑩ あなた自身または家族や知り合いが、過去5年間に、性的マイノリティ(少数者)に対する差別的な言動やしぐさ、落書きなどを直接見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 結婚での反対 |
| 2 | 就職時や職場での不利な扱い |
| 3 | 差別発言 |
| 4 | 差別落書きや差別投書 |
| 5 | 住民としての交流や付き合いを避ける |
| 6 | インターネット上の不当な書き込み |
| 7 | 身元調査や問い合わせなど |

〈分析〉

○ 無回答が98.1%。回答件数15件のうち「f. インターネット上の不当な書き込み」(5件)と「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」(5件)とする回答で3分の2を占めている。[図47]

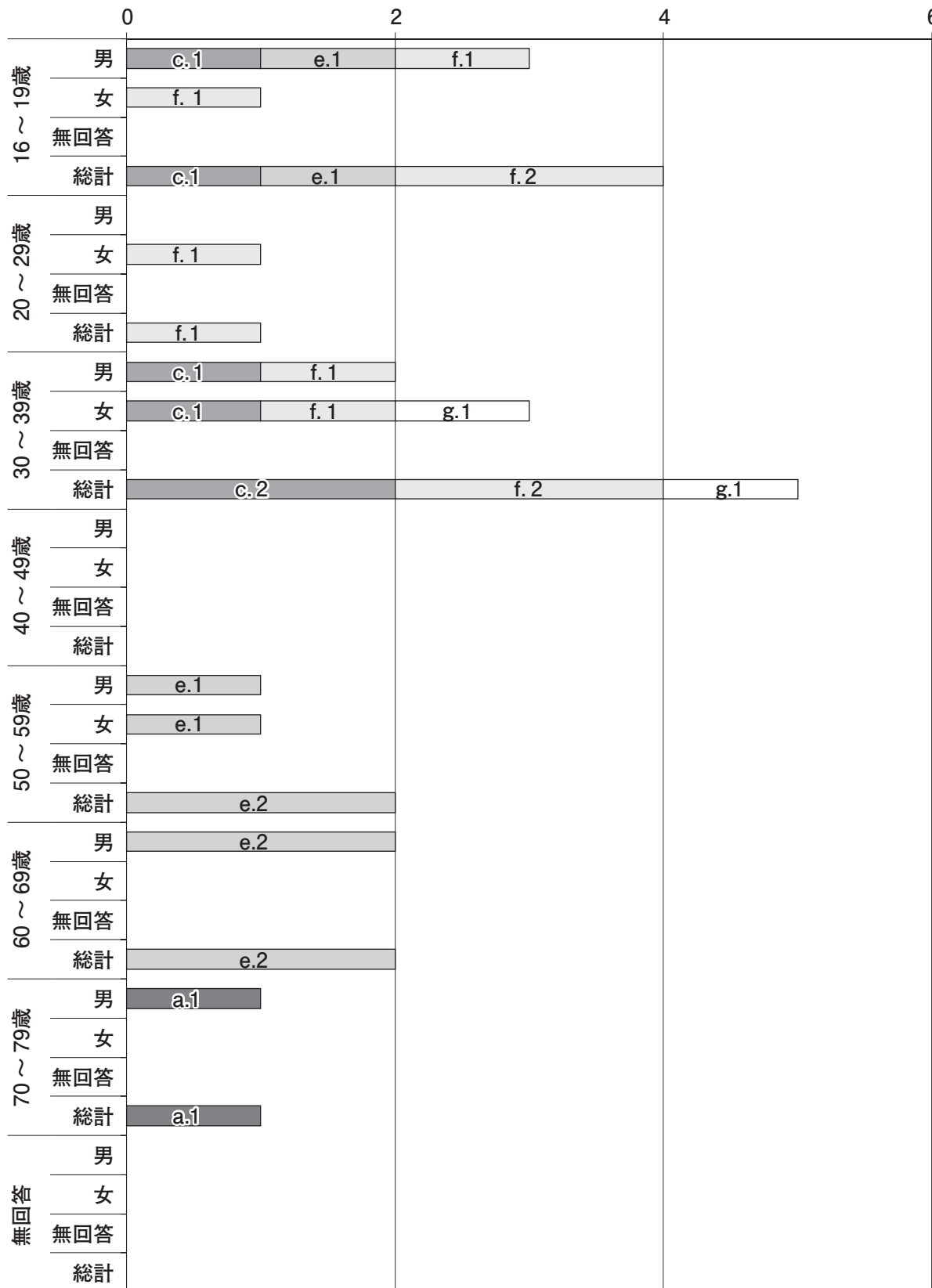


○ 性別 [図48] でみると、回答件数では男性が僅かに多い。

○ 年齢階層別 [図48] にみると、30～39歳5件、16～19歳4件が件数が多い。内容別では30～39歳以下の年齢層は「f. インターネット上の不当な書き込み」が多く、50～59歳、60～69歳は「e. 住民としての交流や付き合いを避ける」が多い。

図48

(件)



- a. 結婚での反対
- b. 就職時や職場での不利な扱い
- c. 差別発言
- d. 差別落書きや差別投書
- e. 住民としての交流や付き合いを避ける
- f. インターネット上の不当な書き込み
- g. 身元調査や問い合わせなど

○ 職業別 [図49] にみると、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員、学生がそれぞれ4件、医療・保健・福祉関係者、無職がそれぞれ2件となっている。

図49

(件)

	0	1	2	3	4
農林漁業者					
企業経営者・自営業者	e. 1				
企業・工場・商店勤務	e. 1				
教職員					
医療・保健・福祉関係者	f. 1	g. 1			
公務員 (教職、医療・保健・福祉以外)		c. 2	e. 1	f. 1	
その他専門職・自由業					
家事従事	f. 1				
パート・臨時職員					
学 生	c. 1	e. 1		f. 2	
フリーター					
無 職	a. 1	e. 1			
そ の 他					

■ a. 結婚での反対	■ b. 就職時や職場での不利な扱い
■ c. 差別発言	■ d. 差別落書きや差別投書
■ e. 住民としての交流や付き合いを避ける	■ f. インターネット上の不当な書き込み
□ g. 身元調査や問い合わせなど	

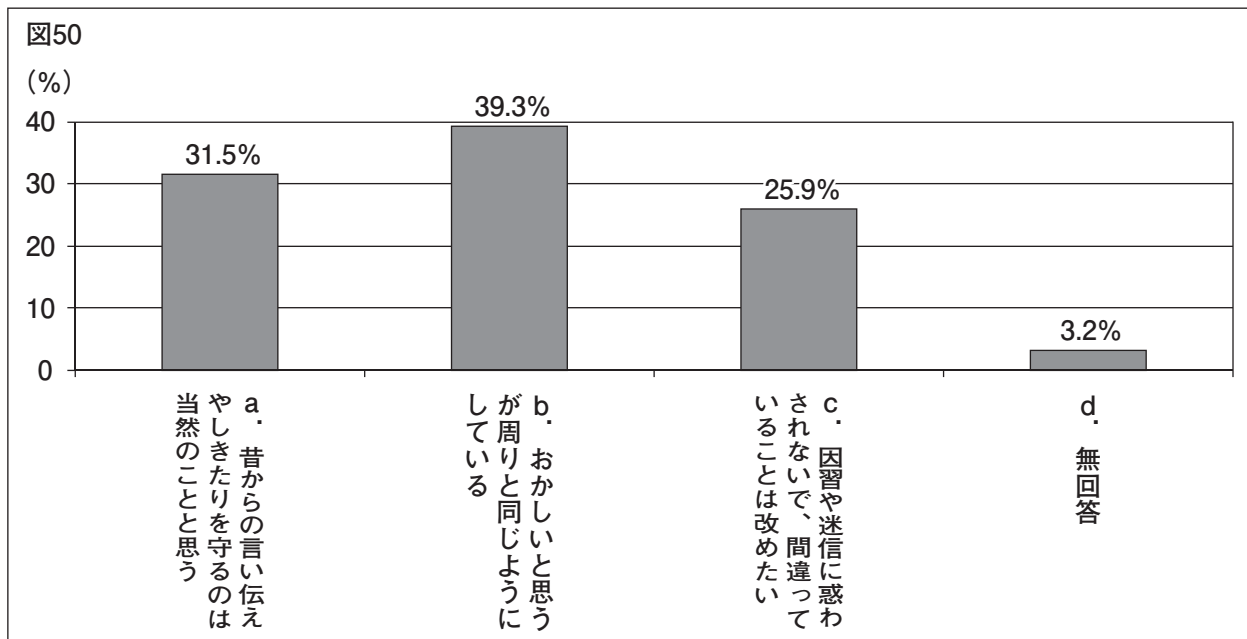
因習・迷信について

質問5 あなたは、「結婚式は大安の日にする」とか、「葬式は友引の日にはならない」というような因習や迷信をどう思いますか。あなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

- 1 昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う
- 2 おかしいと思うが周りと同じようにしている
- 3 因習や迷信に惑（まど）わされしないで、間違っていることは改めたい

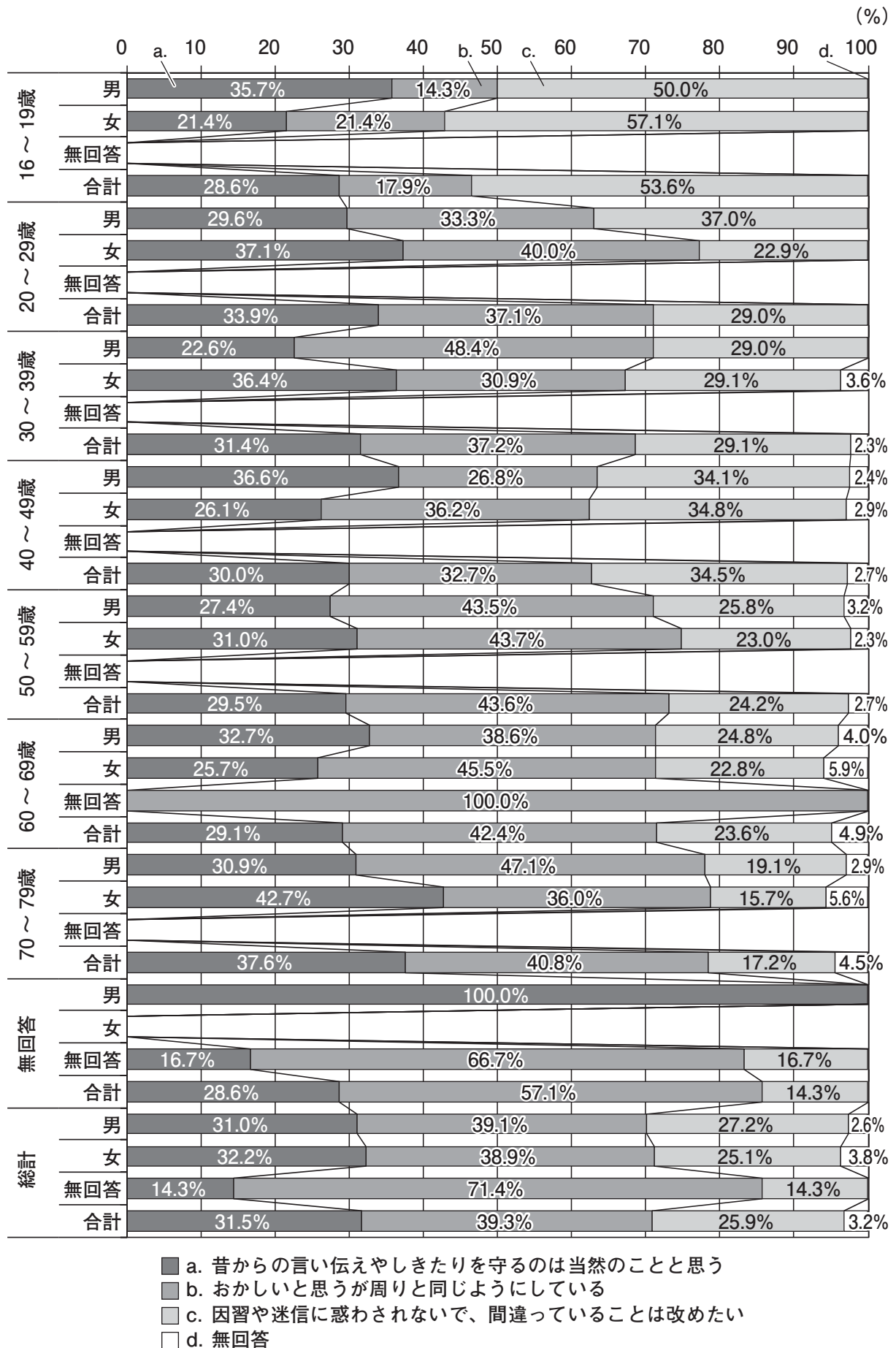
〈分析〉

○ 因習や迷信については、「a. しきたりを守ることは当然のことと思う」(31.5%)、「b. 周りと同じようにしている」(39.3%)を合わせて70.8%と7割の人が因習や迷信を肯定、容認している。「c. 間違っていることは改めたい」とする回答は25.9%である。〔図50〕



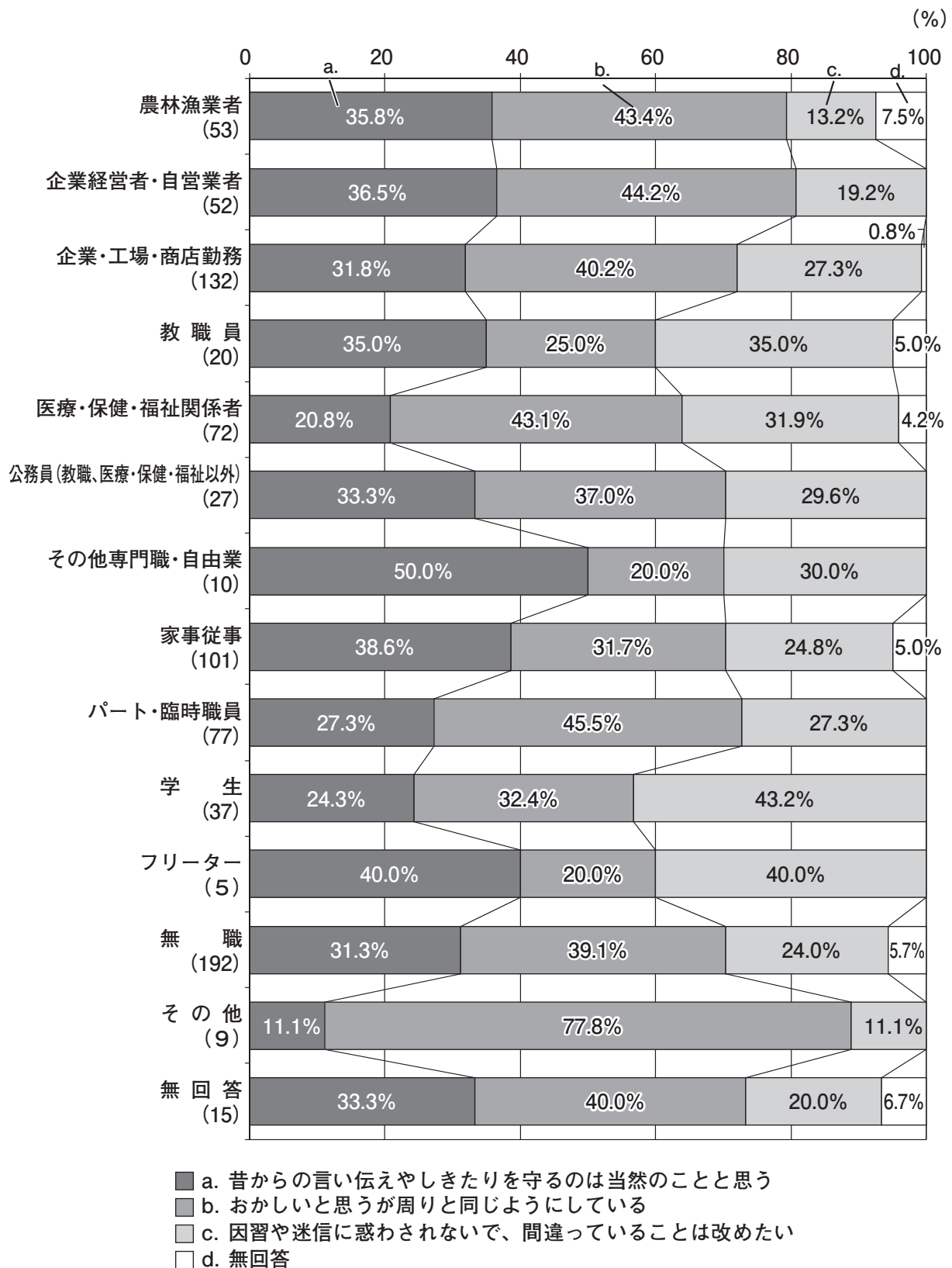
- 性別〔図51〕で見ると大差はない。
- 年齢階層別〔図51〕で見ると、「a. しきたりを守ることは当然のことと思う」、「b. 周りと同じようにしている」は70～79歳(78.4%)が最も高く、50～59歳、60～69歳、20～29歳は70%を超えている。「c. 間違っていることは改めたい」は16～19歳(53.6%)が最も高く、次いで40～49歳(34.5%)が高くなっている。概して年齢が上がるにしたがって低くなる傾向にある。

図51



○ 職業別 [図52] でみると、「a. しきたりを守ることは当然のことと思う」、「b. 周りと同じようにしている」は企業経営者・自営業者(80.7%)、農林漁業者(79.2%)が高く、最も低いのは学生(56.7%)である。一方、「c. 間違っていることは改めたい」は学生(43.2%)が最も高く、フリーター(40.0%)、学校の教職員(35.0%)、医療・保健・福祉関係者(31.9%)、その他専門職・自由業(30.0%)が30%以上となっている。逆に農林漁業者(13.2%)は最も低く、次いで企業経営者・自営業者(19.2%)が低くなっている。

図52



【質問5（因習や迷信）と質問8-①（研修会等への参加回数）との関連】 [表5] [図53]

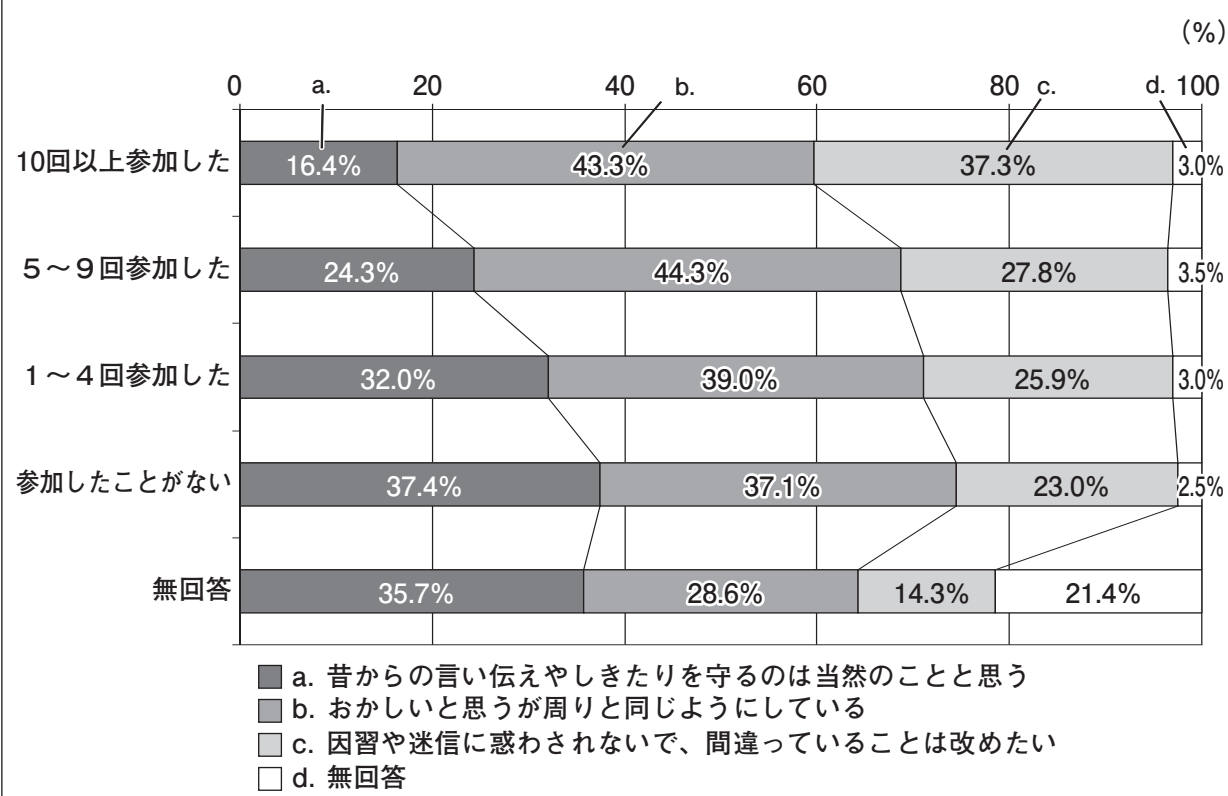
因習や迷信に対する意識について、研修会等への参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

- 研修会等への参加回数が増えるにしたがって、因習や迷信について「a. しきたりを守るのは当然のことと思う」とする割合は低くなり、研修会等に「参加したことがない」は37.4%であるが、「10回以上参加した」では16.4%と21ポイント低くなっている。一方、「c. 間違っていることは改めたい」は「参加したことがない」は23.0%であるが、「10回以上参加した」では37.3%と14.3ポイント高くなっている。しかし、「b. 周りと同じようにしている」とする回答は研修会等への参加回数が増えると高くなっており、六曜への配慮を肯定する冠婚葬祭への因習的態度は依然として強い傾向にあるといえる。

[表5]

選択項目	総計		a. 昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う		b. おかしいと思うが周りと同じようにしている		c. 因習や迷信に惑わされないうで、間違っていることは改めたい		d. 無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
10回以上参加した	67	100.0%	11	16.4%	29	43.3%	25	37.3%	2	3.0%
5～9回参加した	115	100.0%	28	24.3%	51	44.3%	32	27.8%	4	3.5%
1～4回参加した	328	100.0%	105	32.0%	128	39.0%	85	25.9%	10	3.0%
参加したことがない	278	100.0%	104	37.4%	103	37.1%	64	23.0%	7	2.5%
無回答	14	100.0%	5	35.7%	4	28.6%	2	14.3%	3	21.4%
合計	802	100.0%	253	31.5%	315	39.3%	208	25.9%	26	3.2%

図53



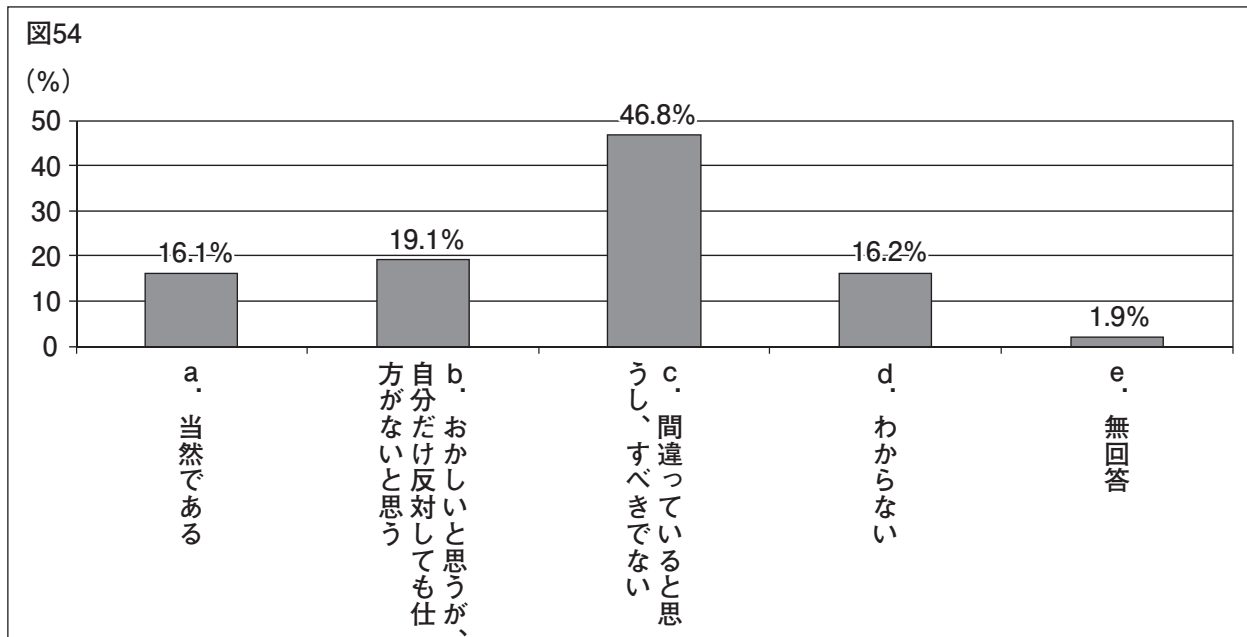
身元調査（結婚）について

質問6 結婚のとき、家柄・財産、親の仕事や社会的地位などの身元調査することを、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

- 1 当然である
- 2 おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う
- 3 間違っていると思うし、すべきでない
- 4 わからない

〈分析〉

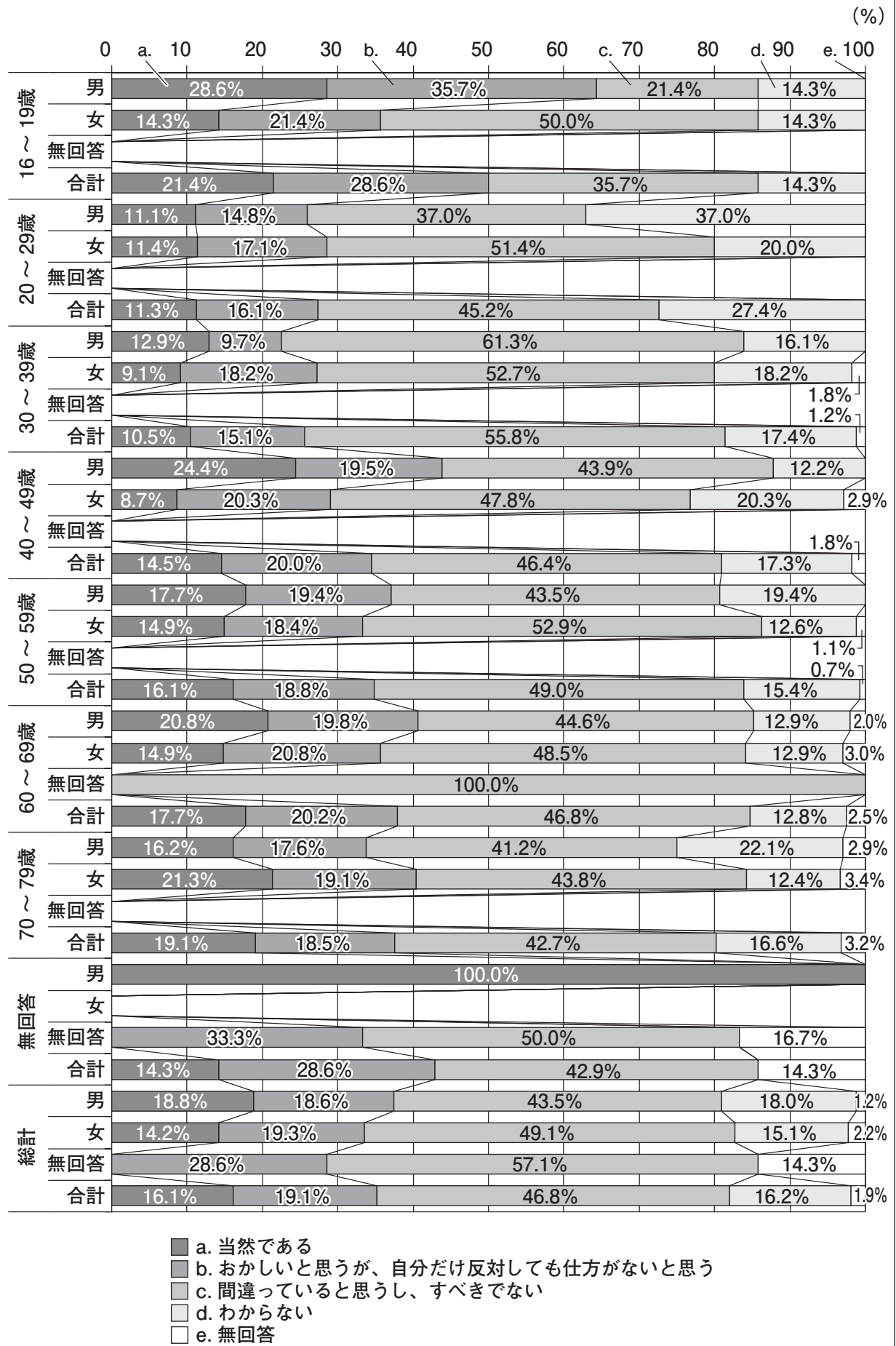
○ 身元調査については「c. すべきではない」が最も高いが、46.8%と半数に満たない。〔図54〕



○ **性別**〔図55〕で見ると、身元調査は「c. すべきでない」は女性(49.1%)が男性(43.5%)より高い。「a. 当然である」「b. 仕方がないと思う」の合計は男性(37.4%)が女性より高い。また、「d. わからない」とする回答も男性(18.0%)が女性より高い。男性の方が身元調査を容認する傾向にあるといえる。

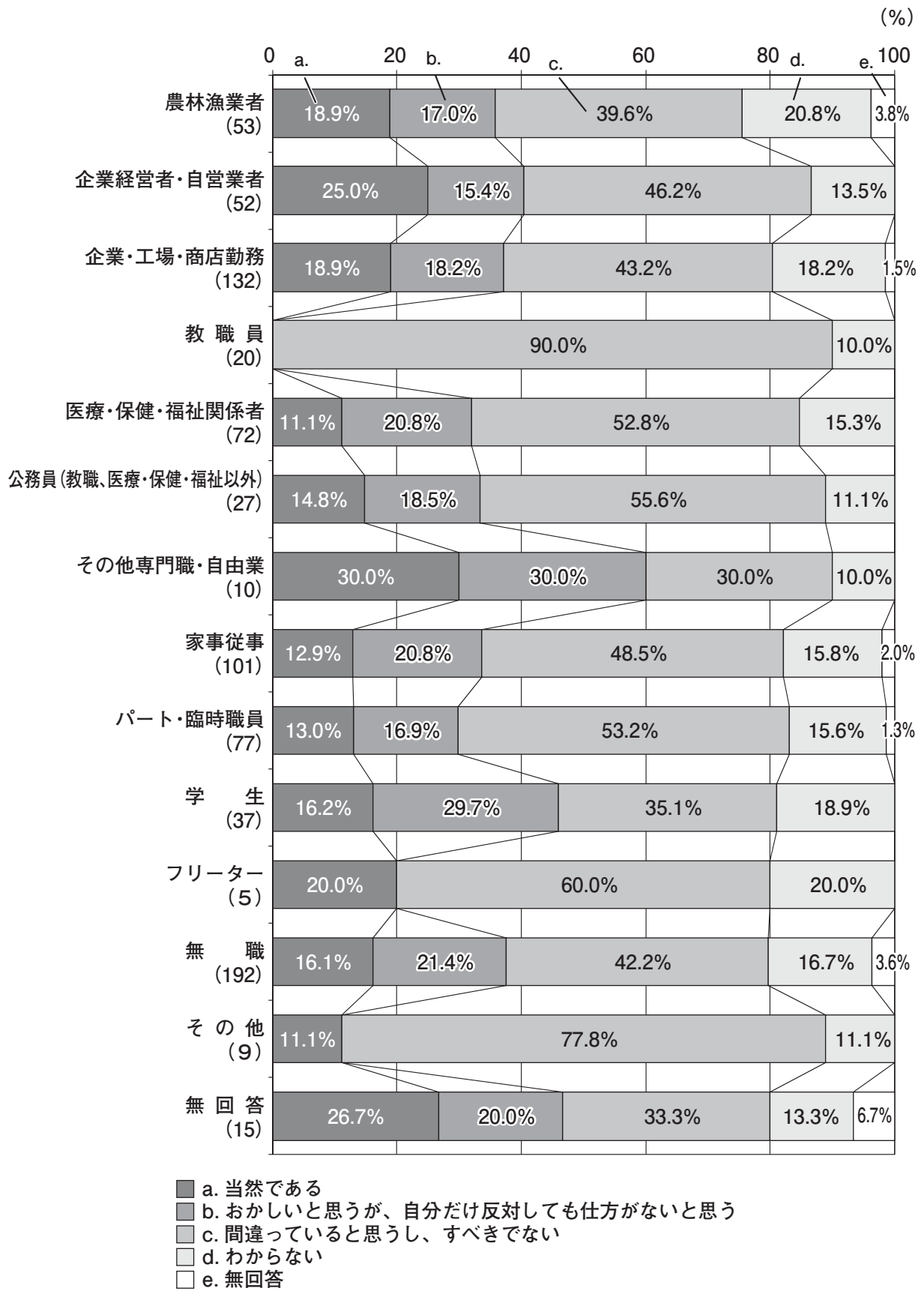
○ **年齢階層別**〔図55〕で見ると、身元調査は「c. すべきでない」は30～39歳(55.8%)が半数を超え最も高い。16～19歳は35.7%と最も低く、次いで70～79歳(42.7%)が低い。20～29歳は「d. 分からない」とする回答が27.4%と他の年代層に比べて10ポイント以上高い。

図55



○ 職業別 [図 56] でみると、身元調査は「c. すべきでない」は学校の教職員(90.0%)が最も高く、次いで
 その他(77.8%)、フリーター(60.0%)の順に高い。一方、その他専門職・自由業(30.0%)は最も低く、学生
 (35.1%)、農林漁業者(39.6%)も低い。

図56



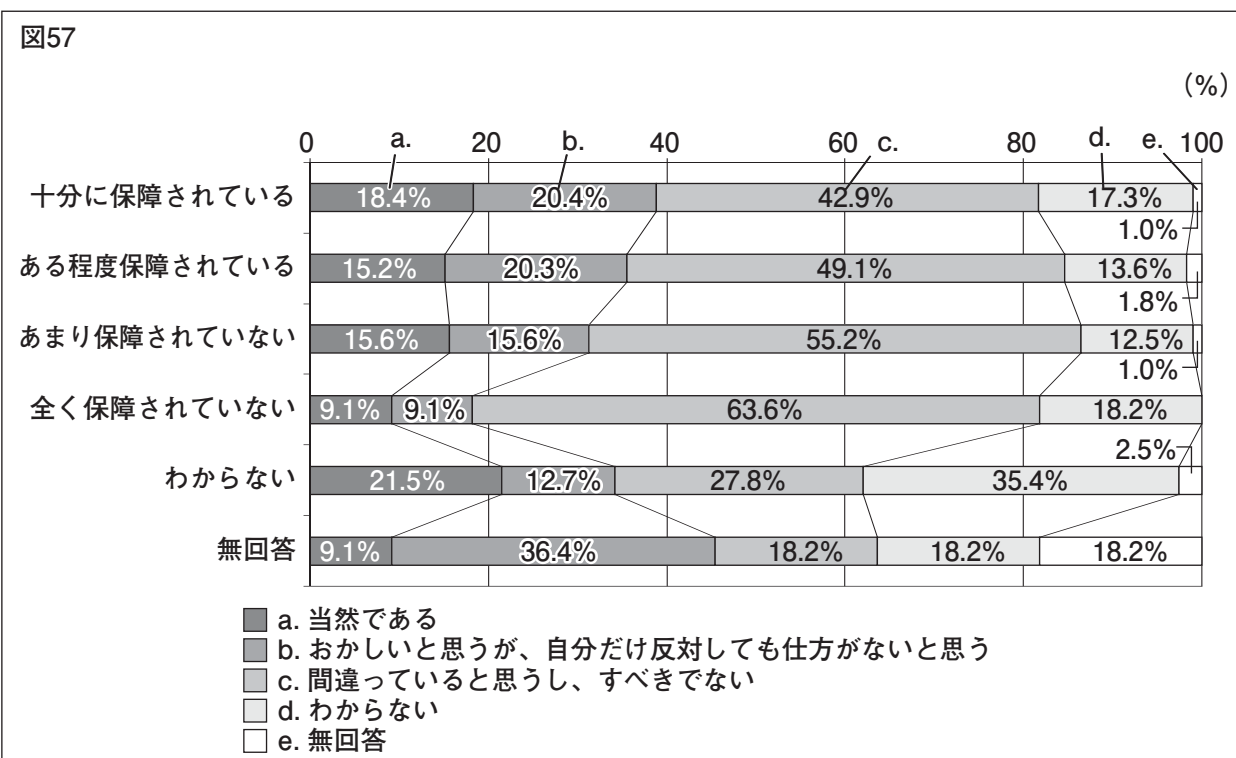
【質問6 (結婚のとき身元調査をする)と質問1 (人権は保障されている) との関連】 [表6][図57]

身元調査の是非について、自分の人権は保障されているかどうかの認識の違いによる意識や態度の傾向をみた。

- 結婚のとき、身元調査を「c. すべきでない」とする人は、人権は「全く保障されていない」と受け止めている人の割合が最も高く6割以上である。一方、身元調査は「a. 当然である」、「b. 仕方がないと思う」とする人は、人権は「十分に保障されている」と受け止めている人の割合が最も高く約4割を占めており、相関関係が認められる。

[表6]

選択項目	総計		a. 当然である		b. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う		c. 間違っていると思うし、すべきでない		d. わからない		e. 無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
十分に保障されている	98	100.0%	18	18.4%	20	20.4%	42	42.9%	17	17.3%	1	1.0%
ある程度保障されている	507	100.0%	77	15.2%	103	20.3%	249	49.1%	69	13.6%	9	1.8%
あまり保障されていない	96	100.0%	15	15.6%	15	15.6%	53	55.2%	12	12.5%	1	1.0%
全く保障されていない	11	100.0%	1	9.1%	1	9.1%	7	63.6%	2	18.2%	0	0.0%
わからない	79	100.0%	17	21.5%	10	12.7%	22	27.8%	28	35.4%	2	2.5%
無回答	11	100.0%	1	9.1%	4	36.4%	2	18.2%	2	18.2%	2	18.2%
合計	802	100.0%	129	16.1%	153	19.1%	375	46.8%	130	16.2%	15	1.9%



【質問6（結婚のとき身元調査をする）と質問5（因習や迷信）との関連】 [表7] [図58]

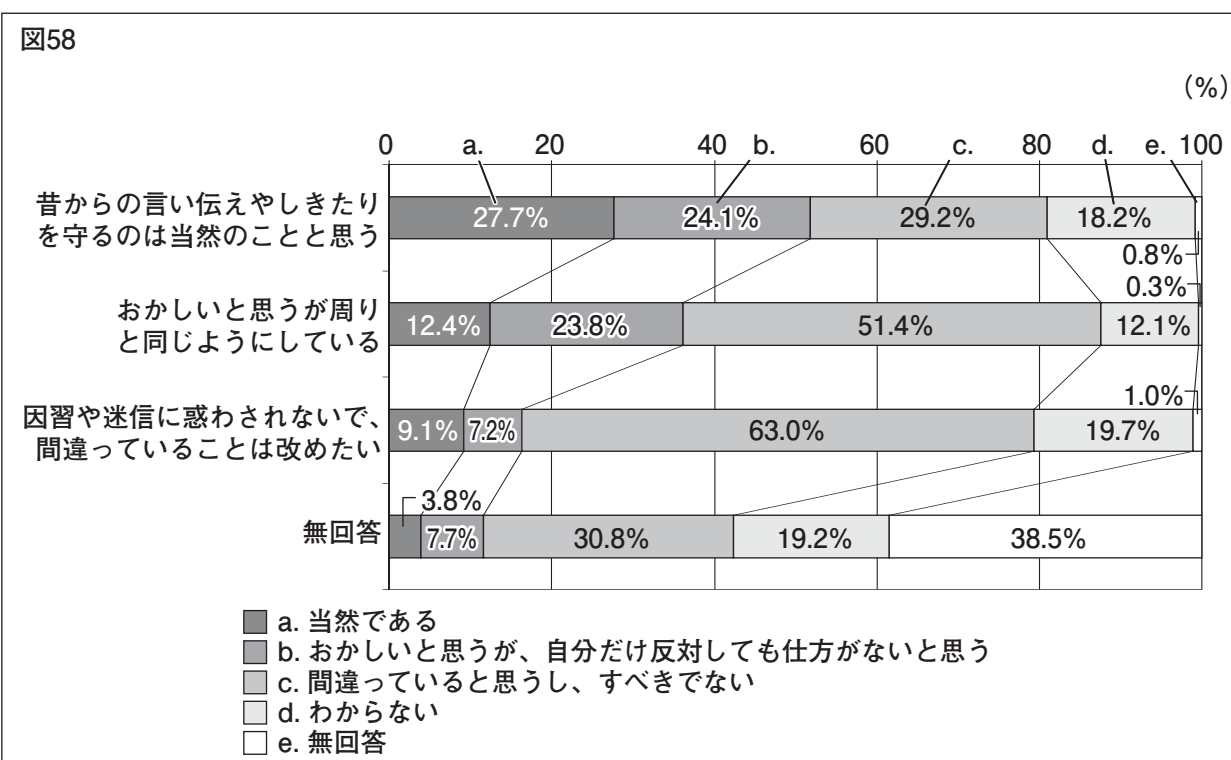
身元調査の是非について、因習や迷信に対する考え方の違いによる意識や態度の傾向をみた。

- 結婚のとき、身元調査を「c. すべきでない」とする人は、「因習や迷信に惑わされなくて、間違っていることは改めたい」（63%）とする回答が最も高く、「しきたりを守るのは当然のことと思う」（29.2%）と肯定する人の約2倍となっている。一方、身元調査は「a. 当然である」、「b. 自分だけ反対しても仕方ないと思う」と身元調査を肯定、容認する人は、因習や迷信を「しきたりを守るのは当然のことと思う」とする回答が最も高く、「因習や迷信に惑わされなくて、間違っていることは改めたい」が最も低く、相関が認められる。六曜に縛られた生活態度と身元調査の慣行は、ともに世間体という差別意識として支え合っているといえる。

[表7]

選択項目	総計		a. 当然である		b. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方ないと思う		c. 間違っていると思うし、すべきでない		d. わからない		e. 無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う	253	100.0%	70	27.7%	61	24.1%	74	29.2%	46	18.2%	2	0.8%
おかしいと思うが周りと同じようにしている	315	100.0%	39	12.4%	75	23.8%	162	51.4%	38	12.1%	1	0.3%
因習や迷信に惑わされなくて、間違っていることは改めたい	208	100.0%	19	9.1%	15	7.2%	131	63.0%	41	19.7%	2	1.0%
無回答	26	100.0%	1	3.8%	2	7.7%	8	30.8%	5	19.2%	10	38.5%
合計	802	100.0%	129	16.1%	153	19.1%	375	46.8%	130	16.2%	15	1.9%

図58



【質問6（結婚のとき身元調査をする）と質問8-①（研修会等への参加回数）との関連】 [表8] [図59]

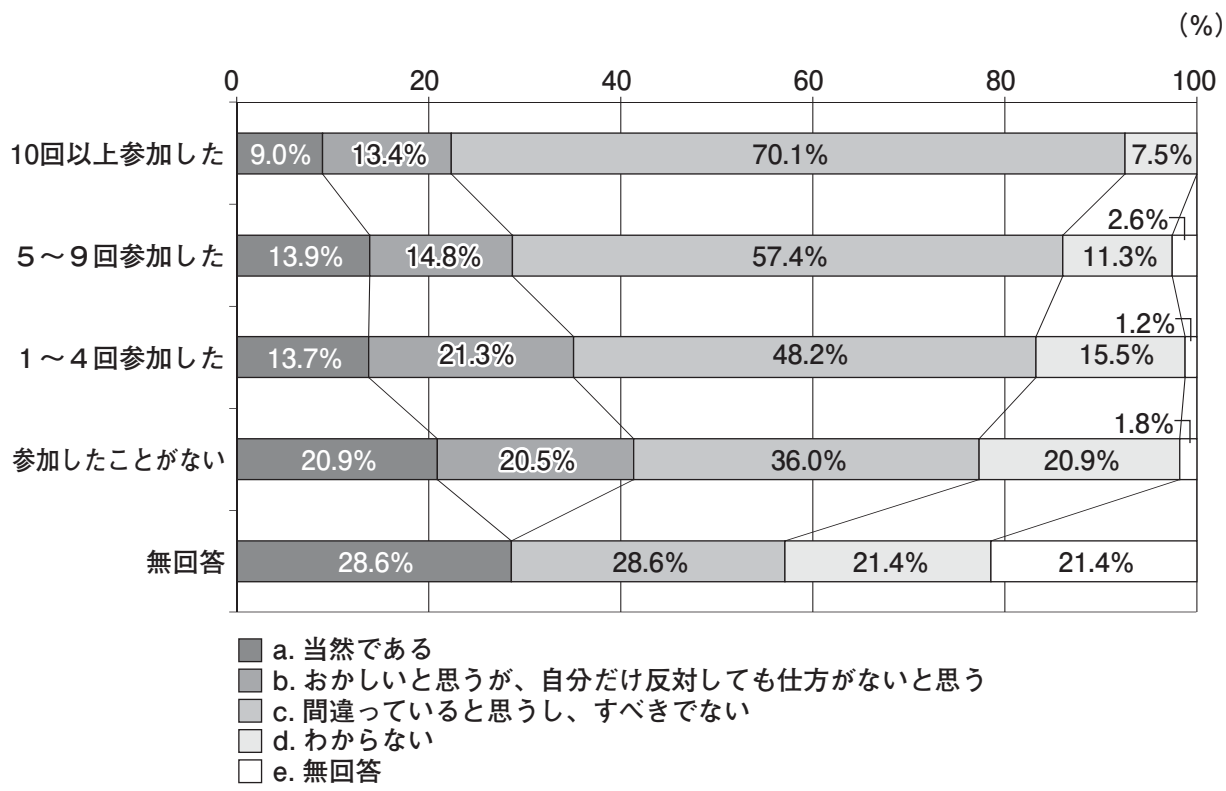
身元調査の是非について、研修会等への参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

- 研修会等への参加回数が増えるにしたがって、身元調査を肯定、容認する割合は減少し、「c. すべきでない」とする割合は増え、「10回以上」では7割になっている。

[表8]

選択項目	総計		a. 当然である		b. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う		c. 間違っていると思うし、すべきでない		d. わからない		e. 無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
10回以上参加した	67	100.0%	6	9.0%	9	13.4%	47	70.1%	5	7.5%	0	0.0%
5～9回参加した	115	100.0%	16	13.9%	17	14.8%	66	57.4%	13	11.3%	3	2.6%
1～4回参加した	328	100.0%	45	13.7%	70	21.3%	158	48.2%	51	15.5%	4	1.2%
参加したことがない	278	100.0%	58	20.9%	57	20.5%	100	36.0%	58	20.9%	5	1.8%
無回答	14	100.0%	4	28.6%	0	0.0%	4	28.6%	3	21.4%	3	21.4%
合計	802	100.0%	129	16.1%	153	19.1%	375	46.8%	130	16.2%	15	1.9%

図59



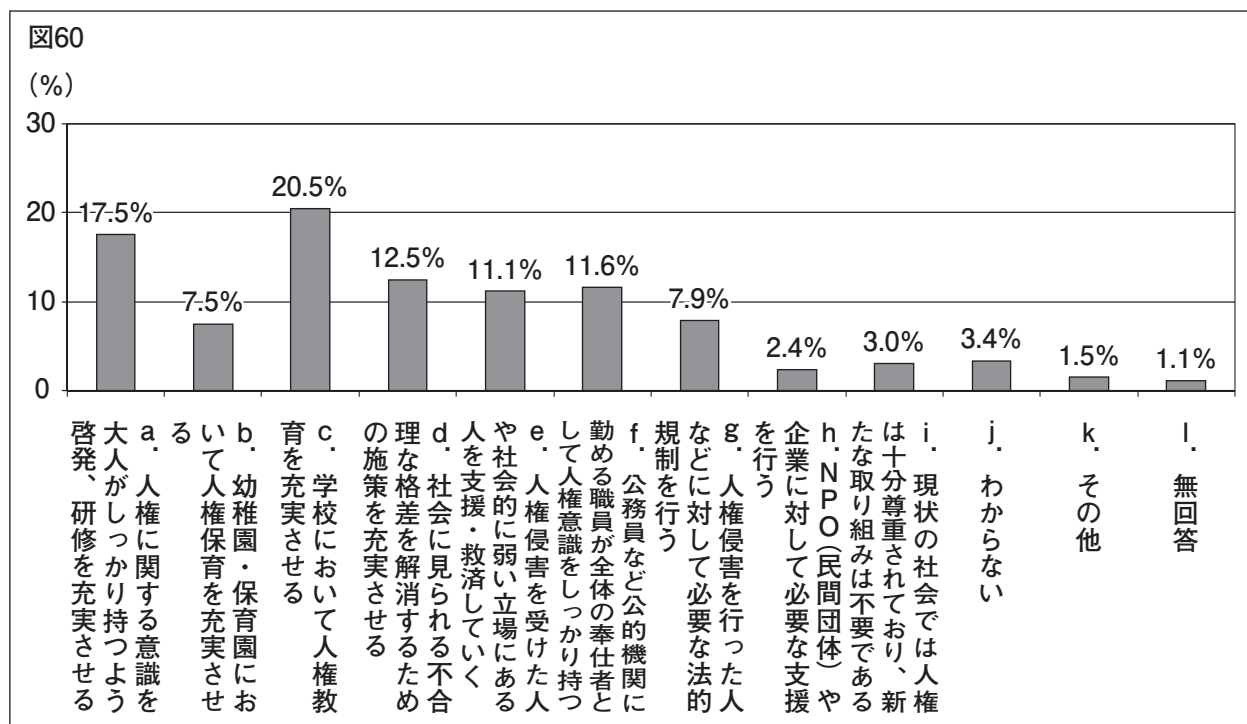
行政施策について

質問7 人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策としてどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる
- 2 幼稚園・保育園において人権保育を充実させる
- 3 学校において人権教育を充実させる
- 4 社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる
- 5 人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく
- 6 公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかり持つ
- 7 人権侵害を行った人などに対して必要な法的規制を行う
- 8 NPO（民間団体）や企業に対して必要な支援を行う
- 9 現状の社会では人権は十分尊重されており、新たな取り組みは不要である
- 10 わからない
- 11 その他（ ）

〈分析〉

○ 人権が尊重される社会を実現するため必要な行政の施策は、「c. 学校において人権教育を充実させる」(20.5%)が最も高く、次いで「a. 人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる」(17.5%)、「d. 社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる」(12.5%)、「f. 公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかり持つ」(11.6%)、「e. 人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく」(11.1%)の順になっている。[図60]

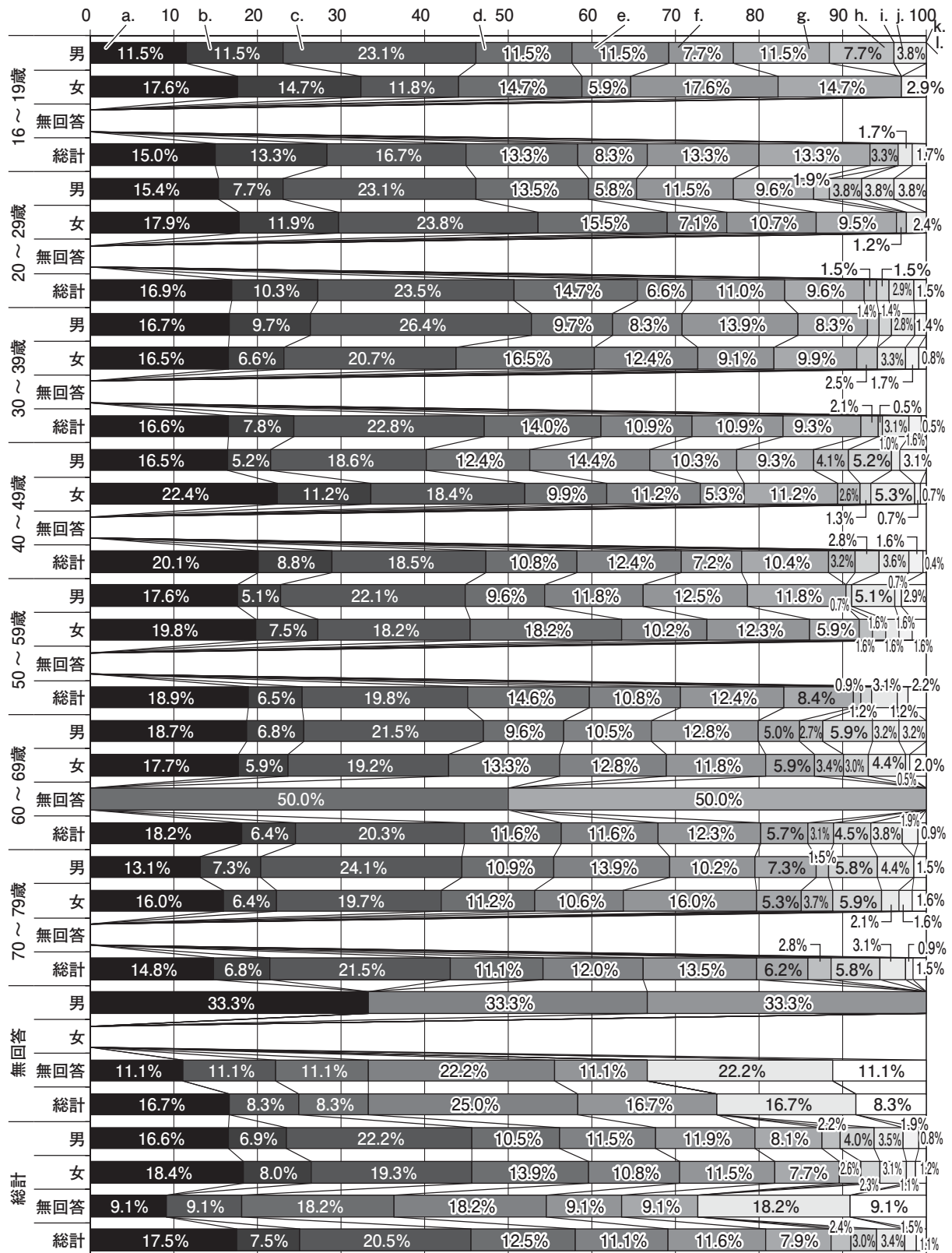


○ 性別[図61]でみると、男女とも「c. 学校において人権教育を充実させる」(男性 22.2%、女性 19.3%)が最も高く、男性が女性より約3ポイント高い。「d. 社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる」は女性(13.9%)が男性(10.5%)より3.4ポイント高くなっている。

○ 年齢階層別[図61]でみると、40～49歳以外の年代層は「c. 学校において人権教育を充実させる」が最も高く、40～49歳は「a. 人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる」(20.1%)が最も高くなっている。

図61

(%)



- a. 人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる
- b. 幼稚園・保育園において人権保育を充実させる
- c. 学校において人権教育を充実させる
- d. 社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる
- e. 人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく
- f. 公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかりと持つ
- g. 人権侵害を行った人などに対して必要な法的規制を行う
- h. NPO（民間団体）や企業に対して必要な支援を行う
- i. 現状の社会では人権は十分尊重されており、新たな取り組みは不要である
- j. わからない
- k. その他
- l. 無回答

○ 職業別[図 62]にみると、「c. 学校において人権教育を充実させる」はその他(26.3%)が最も高く、次いでその他専門職・自由業(26.1%)、パート・臨時職員(23.0%)の順に高い。「a. 人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる」はその他(26.3%)が最も高く、次いで学校の教職員(24.5%)、パート・臨時職員(23.0%)の順になっている。「d. 社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる」はフリーター(16.7%)、医療・保健・福祉関係者(16.6%)が高い。「f. 公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかりと持つ」は企業経営者(17.5%)、その他(15.8%)が高くなっている。「e. 人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく」は、フリーター(25.0%)、その他専門職・自由業(17.4%)が高い。

図62

